

令和元年第8回小金井市教育委員会定例会議事日程

令和元年7月30日（火）

午後1時30分開会

開催日時	令和元年7月30日	開会 1時30分 閉会 5時28分	
場 所	小金井市商工会館3階 萌え木ホール		
出席委員	教 育 長 大熊 雅士 教育長職務 代理者 鮎川志津子	委 員 福元 弘和 委 員 岡村理栄子 委 員 浅野 智彦	
欠席委員			
説明のため出席した者の職氏名	学校教育部長 大津 雅利 生涯学習部長 藤本 裕 庶務課長 松井 玉恵 学務課長 河田 京子 指導室長 浜田 真二 統括指導主事 平田 勇治 指導主事 田村 忍 指導主事 西尾 崇	小金井第四小学校長 延 毅彦 緑小学校長 所 夏目 生涯学習課長 関 次郎 オリンピック・パラリンピック兼 スポーツ振興担当課長 内田 雄介 図 書 館 長 菊池 幸子 公 民 館 長 林 文男 庶 務 係 長 中島 憲彦	
調 製			
傍聴者人数	30名		

日程	議 題	
第 1		会議録署名委員の指名
第 2	議案第 7 号	令和 2 年度使用小学校教科用図書の採択について
第 3	報告事項	1 その他
		2 今後の日程
第 4	議案第 8 号	職員の人事異動について

大熊教育長 お待たせした。ただいまから令和元年第8回小金井市教育委員会定例会を開会する。

日程第1、会議録署名委員の指名である。

本日の会議録署名委員は、福元委員と岡村委員にお願いする。

(委員一同異議なく、上記2名が選出された。)

大熊教育長 次に、日程第2、議案第7号、令和2年度使用小学校教科用図書の採択についてを議題とする。

提案理由について説明をお願いします。

大津学校 提案理由についてご説明する。

教育部長 地方教育行政の組織及び運営に関する法律第21条第6号の規定に基づき、令和2年度小金井市立小学校使用教科書の採択をする必要があるため、本案を提出するものである。

細部については担当室長から説明させていただくので、よろしくご審議の上、採択賜るようお願い申し上げます。

大熊教育長 よろしくをお願いします。

浜田指導室長 令和2年度市立小学校使用教科書の採択についてであるが、小金井市立学校使用教科書採択のための調査研究に関する要綱及び同細目に基づいて、調査研究を進めてきた。各学校における調査研究、各学校長から推薦された委員で構成された調査研究委員会における調査研究が行われた。

さらに、それらをもとに、選定調査委員会の正副委員長、調査研究委員会の正副委員長、保護者の代表、教育委員会の事務局等で構成された選定調査委員会で調査研究を行った。

その結果をまとめたものが配付した選定調査資料である。選定調査資料は各教科の教科書会社ごとに作成している。

以上である。

大熊教育長 それでは、最初に、今回の教科書選定に当たり、教育委員会とし

での視点を確認したいと思う。

来年度から新学習指導要領に移行する。その中で授業改善の視点として、「主体的・対話的で深い学び」が示された。これは先行き不透明な社会でもたくましく生きることができる力をつけるためである。これまではややもすると、教師主導で行われた授業もあった。子どもが事象との出会いによって持った疑問を学級の問題に高め、観察や調査、実験、討議、試行錯誤を通して問題を解決し、理解を深めていく、そして、子どもたちが自分自身の問題解決過程を振り返り、学びの軌跡を確かめることによって、問題解決の手法等を明らかにし、他の問題解決に活用できる考え方や学びの手法を身につけていくことが必要であると考えます。

主体的・対話的で深い学びが実現できる可能性が一番高い教科書を選定していきたい、小金井の子どもたちが興味を持って、みずから主体的に学べる教科書を選定していきたいと考える。このことは校長会や選定委員の先生方にも何度も伝えてきた。このような視点でよろしいか、もう一度確認したいと思うが、よろしいか。

(委員一同異議なしの声)

大熊教育長 それでは、選定調査委員長、副委員長にも私どもが質問し、お答えをいただいて、理解を深めていきたいと思う。

なお、私ども、選定調査資料を事前に拝見しているので、各自で実際に教科書の見本を拝見し、研究していることから、教科書各社ごとの説明については、報告書全てではなく特徴的なことに絞って報告していただきたいと思うが、いかがか。

(委員一同異議なしの声)

大熊教育長 それでは、選定調査委員長、よろしく願います。

所校長 それでは、教科の報告の前に、選定調査委員会 保護者代表からの教科書についての主な意見を報告する。

今の教科書はカラフルで楽しそうな印象をもった。どの教科書も問いかげに工夫があり、深い対話を促す意図を感じた。また、社会的弱者の視点が増えている。家に帰っても見たくなるような教科書、

わかりやすく学習できる教科書がよい。生活とリンクさせた教え方ができる教科書がよい。教科書の重さ、大きさが子どもの負担にならないようにしてほしい。学校の先生方が使いやすい教科書を選んでほしい。以上のような意見があった。

なお、全体にかかわることで、ここで1つ触れたいと思う。教科書の合冊と分冊について検討したところ、どちらにもよさがあるとの意見が挙がった。合冊は全体の見通しがもて、単元の振り返りができる。分冊は軽くて児童の負担にならない、また、用途に合わせた活用ができる、そういったよさがある。

続いて、国語の報告をする。

延校長

国語の報告をさせていただく。小学校使用、国語の教科用図書の調査研究の報告をする。

国語の教科書は全4社である。どの教科書にも共通する点は、教材に合った適切な文字のフォントになっており、読みやすく工夫されている。写真や挿絵、資料が適切に提示されているので、児童の思考を効果的に促す手だてになっている。各領域がバランスよく配列されており、身につけさせたい力が系統的に配列されている。

その上で、まず、東京書籍である。物語教材に名作が多く、児童に読ませたい、よい作品である。説明文が指導事項に適切な構成になっている。新しい情報のものが多い。実用的な文章の書き方のページも文章がしっかり書かれている。話し合いの仕方が1学期に配当されているのがよい。本の紹介のコーナーに名著がたくさん紹介されていてよい、などの特色が報告されている。

次に、学校図書である。昔から掲載されてきた名作教材が残っており、多様な読む教材が扱われている。資料編も充実しており、読むことへの意欲が高められる内容である。言語事項のページがあり、文章のつくりについて理解が深められる。現代の課題に則した内容が盛り込まれ、課題意識を持って取り組める教材である。高学年は情報に関する教材が多く取り上げられている、などの特色が報告されている。

次に、教育出版である。哲学対話、書評を書くなど、多角的な幅のある教材が扱われており、児童の興味を引く教材が多い。本紹介や古典教材が充実している。言葉のコーナーがあり、語彙力を高められることができると思う。2学年続いて採用されている作者の作

品があり、作者に注目した読み方ができるところが特徴である。

次に、光村図書である。すぐれた名作教材、古典に関する学習、伝統的な文学に多く触れることができ、児童に生き方を考えさせる作品が多い。物語文、説明文の学習の部分の内容が豊富である。言葉の情報量や文学の紹介など、付録の補助教材が充実している。最初の学習が「話す・聞く」で、交流できる内容になっている。学習のページは例示が多く、自力解決が難しい児童にとっても参考になる。3年から6年生にローマ字表、アルファベット表があり、活用しやすくなっている、などの特色が報告されている。

以上である。

大熊教育長 それでは、質問のある方、お願いします。福元委員。

福元委員 国語科の目標である「言葉による見方・考え方を働かせる」とはどのようなもので、各教科ではどのように扱われているか。

延校長 国語による見方・考え方は、対象と言葉、言葉と言葉の関係を言葉の意味、そして働き、使い方などに着目して捉えたり、問い直したりして、言葉への自覚を高めるということだと考える。

その点、東京書籍は、児童が見方や考え方を働かせて学びを深められるように、ノートやメモ、カードや図表の例、キャラクターのつぶやきなどが見本として提示されている点である。

また、学校図書は、言葉の意味、働き、使い方など、基礎的な知識や技能を押さえ、生活の中で使えるよう工夫されている。

教育出版は、書評や哲学対話など、多様な言語活動を取り上げている。

最後に、光村図書は、学習への取り組み方を上下2段組に構造化してある。上段には、学習過程に沿って課題を設ける、下段には、上段の課題に取り組むための視点や言語活動の型を示すなどの工夫がなされている。

以上である。

大熊教育長 よろしいか。

福元委員 はい。

大熊教育長

ほかにはないか。
鮎川委員。

鮎川教育長
職務代理者

小金井市の学校では読書活動が盛んであるが、読書活動の充実の観点から、各教科書の特徴があったら教えていただけるか。

延校長

読書活動との関連に関しては、全ての教科書会社に取り上げられている。例えば、教育出版では本紹介が充実しており、作家や翻訳家の紹介などもある。また、東京書籍も図書館の活用、本の紹介が充実している。光村図書では、多様なジャンルの読み物を読書活動とあわせて掲載している。また、図書館の活用についても各学年で取り上げられている。

以上である。

鮎川教育長
職務代理者

ありがとう。

大熊教育長

その他、ご質問はないか。よろしいか。
それでは、これより協議に入る。ご意見を願います。
福元委員。

福元委員

各教科書とも物語や説明文の後に学習のページが設定されているが、光村図書と教育出版は「深めよう」、「広げよう」など、学習の流れが示されており、見通しを持った学習ができるように工夫されていた。特に光村図書は、「見通しを持とう」から「振り返ろう」まで設定されており、単元を通した学習が意識されていると思った。

大熊教育長

ほかにあるか。
どうぞ。

浅野委員

私も光村図書がよいと感じている。2点触れたいことがあって、1つは、最初に教育長からご説明があったように、新しい指導要領の柱の1つが「主体的・対話的で深い学び」ということである。だから、対話というものが大変重要な役割を果たすわけだが、しかし、

教室内で対話をしようといっても、すぐ対話ができるということはないわけである。だから、さまざまな対話の類型を取り上げて、具体的にどのようにやっていくのかということをも丁寧に展開していく、そういう教科書が望ましいと思うが、光村の教科書の場合、幾つか異なった類型の対話を取り上げられており、この点が非常にいいと思った。それが1点目である。

2点目だが、ほかの教科書でもAIとか情報化社会について触れているものがあるが、光村の教科書では、AIがプログラミング、プログラム言語との関連で取り上げられている。このことは、来年度以降本格化するであろうプログラミング教育、また、それに触れている理科や算数との教科間連携ということを考えても、なかなか意義の深いことではないかと思う。

以上である。

大熊教育長 今の点は重要な点なので、国語の光村を委員さんに渡していただけるか。光村だけでなく、国語の教科書を見ていただけるか。対話を促すという点では、どのような工夫がされているのか確かめてみたいと思うのだが、6年生で行こうか。6年生の中で、対話を促すというのは、何で確かめたかったかということ、実は、教育出版の中には哲学対話を取り入れられている。光村は何を。

浅野委員 ワールド・カフェのような少人数で話し合う形式。

大熊教育長 対話の練習という形で、一番大事なものはという形で、光村図書はワールド・カフェの手法を用いて対話を進めるという内容が取り上げられているということである。それから、東京書籍はどうか。

福元委員 「話し合って考えよう、深めよう」という。

大熊教育長 何ページぐらいか。

鮎川教育長
職務代理者 一番最初のほうに。

福元委員 巻頭のほう。

大熊教育長 東京書籍は、「気持ちよく対話を続けよう」というところで、教科書の最初に、どのように対話をしたらいいかということが書かれていて、最初から対話を意識した教科書になっているなという印象を受ける。

それから、具体的に、ほかにはないか。学校図書だと。

福元委員 パネルディスカッション。

大熊教育長 パネルディスカッションとして取り上げられている。今までこういうことはあまりなかったが、今回、主体的・対話的で深い学びを実現しようと、各社、いろいろ工夫しているということがわかると思う。この辺が新しいところで、私たちも認識できていると捉えてよろしいか。

ほかにはないか。どうぞ。

岡村委員 巻末の資料にも各教科書の工夫が見えた。教育出版は、付録として、読み物や言葉の学習の役立つ資料が豊富に取り上げられ、東京書籍も読み物教材、付録として取り上げられて、発展的な学習に役立つと考えた。そして、光村図書は、付録に「言葉の宝箱」という小さなページだが、そのページを設けて、学年に応じた考えや気持ちを伝える言葉を紹介していて、とても充実していると思った。私も光村をとと思った。

大熊教育長 なるほど。ほかにはないか。よろしく願います。

福元委員 伝統的な言語や文化について、光村図書は、説明的な文章や書くことの活動にも日本の文化を取り入れている。6年生の『鳥獣戯画』を読む、「日本文化を発信しよう」など、さまざまな場面で伝統的な言語や文化に親しめるような工夫をしていると思った。掲載されている俳句や短歌の作品数も光村が多く、日本の文化や伝統を大切にしていると感じた。国語は日本の言葉を学ぶので、このようなかかわりもとても大切だと思う。

大熊教育長 わかった。ほかにはないか。

どうぞ。

鮎川教育長
職務代理者

国語の大切なことは、今まで委員方がおっしゃったとおりだと思う。国語は読むことも大切な観点だと考えている。

東京都教育委員会から出されている教科書調査研究資料の中で、読むことの作品数、こちらの10ページに記載されている。光村が合計203ページと圧倒的に量が多く、小金井市の先生方が調査してくださった選定調査資料の中に、量の多さだけでなく、光村は発達段階に合ったすぐれた名作教材が引き継がれていて、内容が充実していると書かれている。量、質ともに素晴らしいと感じている。

そして、図書の紹介について、延副委員長からお答えしていただいたとおり、全ての教科書において、随所に図書の紹介がされていて、どの教科書も素晴らしいと思う。教育出版、光村図書は巻末に多くの図書を紹介し、本を紹介する文章も掲載されていた。光村図書は物語を学習した後に、「この本、読もう」という短い紹介文が書かれていて、子どもたちが本を読みたい気持ちになる工夫も見られた。

以上である。

大熊教育長

わかった。僕のほうから少しつけ足しさせたいと思うが、主体的・対話的で深い学びを実現しようとするときに1つ大事な点というのは、今、社会問題にもなっている国語の読みというのか、それがなかなか読解力がしっかりついていないことで、本がしっかり読めないということが1つ大きな問題になっている。今、鮎川委員から指摘があった読み教材が充実しているということは、今の子どもたちの実態に合っているのではないか。

でも一方、やっぱり表現力ということについてもこれからは重要視していかなければならない点なので、いま一度確かめてみたいのだが、僕のほうで見つけてみたところによると、各教科書、表現するというのもかなり気をつけて充実したものになっているように思う。

一例を挙げてみたいと思うが、教育出版では「自分の考えを発信しよう」という形で題材が取り上げられていて、「意見文を書く」という形で取り上げられている。教育出版は32ページである。

鮎川教育長
職務代理者

6年生か。

大熊教育長

6年生である。もう一つは、「スピーチをしよう」ということで、学校図書では、この委員会活動を紹介するという形で、自分の意見を出すという形になっている。意見ということではないが、「卒業文集をつくろう」ということで、思いを伝えるという形で取り上げられているのが東京書籍ということになるかと思う。

光村図書はと見てみたところ、「思い出を言葉に」という形で取り上げられているが、この教科書の特徴として、ただ書くだけではなくて、伝えたいことを明確にして思い出すことである。引きつける表現として、書いてある内容は同じでも、どう表現するかによって味わいが違ってくる。

幾つかの作品をもとにして表現の工夫について考えてみようというページがある。つまり、相手に伝えるためには、伝えるだけではなくて、伝えることの大事さということを取り上げているのが、実はこの光村で、今もいろいろ出てきているが、ほかの教科書もそれなりに取り上げられているが、表現の工夫という形で、伝える内容、表現を工夫しようということが明確に打ち出されているのが1つ、特徴かなと思った。

その辺、ちょっと確かめていただいて、どうか。光村は204ページ。「表現の工夫」というページがある。今までは自分の思いを書くということだったが、表現の工夫があるということは1つ大事な視点だと思う。いかがか。対話のことについては、各教科で取り上げられていて、甲乙つけがたいというか、実を言うと、哲学対話は小金井三小でもやったことがあった。これがいいかなと思った面もあるが、表現力ということを加味してみると、光村の教科書が今の子どもたちには合っているように思うが、皆さん、どうお考えか。よろしいか。

どうぞ。

鮎川教育長
職務代理者

今の教育長の話聞いて、確かにおっしゃるとおり、光村の教科書の表現の工夫は、子どもたちにとってわかりやすいと思った。表現をすることがあまり得意ではなかった、控え目なほうがいいとか、自分自身を出してはいけないという考えが美とされていたことも

あったと思うが、表現をしなくては相手の方に伝わらない。光村の人を引きつける表現では、比喩を適切に用いて、表現の工夫が各学年で随所に記載されている。この観点はいい観点だと思った。

大熊教育長 福元委員、どうか。よろしいか。

福元委員 はい。

大熊教育長 時間もあるので、今まで出てきた中では、その点で光村が1つ、いいのではないかという意見が出ているが、国語の教科書として、小金井の子どもたちにとって、豊かな表現力を培うことに有効であろうと思われる光村図書がよいという意見が出されたわけであるが、国語の教科書は光村図書でよろしいか。

(委員一同異議なしの声)

大熊教育長 それでは、国語の教科書は光村図書と決定する。
次に、書写の説明をお願いします。

延校長 それでは、書写の調査研究を報告する。全5社である。共通する点に関しては、色彩に変化があり、また、写真やイラストが豊富に取り入れられ、お手本となる教材、資料が多く含まれている点、準備の仕方が見開き1ページにおさめられるように見やすく工夫されている点にある。

その上で、各社の特色である。

まず、東京書籍である。児童が実生活に結びつけやすい教材、及び他教科との関連が図られた教材が用意されている点、国語の教科書と関連して学べる教材の構成になっている点、学年に合わせて硬筆の難易度が徐々に上がっている点、巻末の資料が充実しており、振り返りができる点などの特色がある。

続いて、学校図書である。見開きで手本が掲載されていて、実際の半紙と同じサイズで、児童が扱いやすく構成されている。自分でシールを張って学習のポイントを確認して進めることができる。観察カード、はがき、原稿用紙など、生活と関連した項目がある。文字の由来や道具などについてのコラムがあり、意欲が高まる内容で

ある。「確かめる」、「考える」、「生かす」という流れで構成されている、などの特色がある。

続いて、教育出版である。外国語の表記の仕方に触れるなど、言語事項としての幅が広い点である。言葉や文字についての理解を深めるための教材の取り扱いが豊富である。姿勢から始まり、文字の細やかな学習へとステップが細かく記されている点がある。ポイントが短い言葉で明記されており、大変わかりやすく書かれている、などの特色がある。

続いて、光村図書である。目当てに沿った教材が選ばれ、国語科の教科書の教材を使っている部分がある。これまでの学習を振り返るページがあり、スパイラルに学習を深めることができる。委員会のポスター、カレンダーなど、他領域や生活に生かされる教材が多い。また、6年生の「自分だけの一文字」の学習活動は、卒業前の教材として大変魅力的である。3年生には「たしかめようシール」、6年生には「書写ブック」など、学年によって特色を出している。全学年に姿勢や筆記具の持ち方が記されているのが大変いいように書かれている、などの特色がある。

最後に、日本文教出版である。筆圧を数字であらわし、視覚的に見やすくしている点である。言葉や文字についての理解を深めるための資料が豊富に提示されている。姿勢から平仮名、平仮名から片仮名、片仮名から漢字と発展的に難しくなっていて、配列が適であると言える。社会科で学習する金印や鉄剣、万葉仮名なども取り上げられており、効果的な指導が可能な点である。B5判なので、持ち運びしやすい、などの特色がある。

以上である。

大熊教育長 ありがとうございます。それでは、質問のある方、お願いします。

福元委員 文字を正しく整えていくための指導について、どのような工夫がされているか。

延校長 まず、東京書籍だが、文字を正しく書くためのポイントを「書写のかぎ」と名づけてわかりやすくまとめている。

学校図書は、見開きで半紙と同じサイズで手本が掲載されていて、実際に書く際、文字のバランスがとりやすくなっているのが特徴で

ある。

また、教育出版は、学習のポイントが短い言葉で明記されていて、1回の学習内容が見開き1ページでコンパクトにまとめられている点である。

光村図書は、学習のポイントと流れがわかりやすくまとめられている。これまでの学習を振り返るページがあり、先ほども申したとおり、スパイラルに学習が深められている点の特徴である。

最後に、日本文教出版は、1回の学習内容が見開き1ページで見やすくまとめられている点である。

以上である。

福元委員 ありがとうございます。

大熊教育長 ほかに。どうぞ。

岡村委員 国語の教科書との関連という視点から考えると、おのおのの教科書はどのような特徴があるか。

延校長 例えば、東京書籍としては、国語の教科書の作品を書く活動がある。

また、学校図書も国語の教科書の作品を選んで書く活動がある。

光村図書に関しては、短歌や俳句など、今までに習ってきたもの、既習事項、国語の教科書と合わせた配列になっているという点がある。

以上である。

大熊教育長 その他、ご質問はないか。今の話を聞いてみると、教科書は今、光村を選定したわけで、その教材が実際に書かれる書写を選んだほうがいいと感想を持っているわけだが、今、もう一度改めて見たのだが、光村図書の最後に「自分だけの一文字」という項目があって、そのときに希望の「希」を書いているのが池江璃花子さんである。これは子どもたちにも何か思いを持たせることができるのではないかと思った。希望の「希」であるからね。教科書に合っているということも大前提なのだが、自分の言葉をしっかり書く教材があるというのも1つ、いいのではないかと思う。

何かご意見があったら、どうぞ。

鮎川教育長
職務代理者 私も光村図書をいいと思っている。学校図書は、延副委員長の話にもあったが、お手本が見開きで書かれている。ほかの教科書も見開きでお手本を書かれているものが幾つかずつあるが、学校図書は多くのお手本が見開きで書かれている。見開きだと半紙大の大きさになっている。

福元委員 このところであるか。

鮎川教育長
職務代理者 はい。子どもたちにとって、実際の大きさがお手本というのはよいと思っている。

ただ、学校の子どもたちの机だと、見開きで置いていると、すずりを置いて、筆を置いていっぱい狭くなってしまうのであろうか。そこが気になる点ではあるが、実際の半紙と同じサイズという点では、子どもたちがお手本どおりに書けるので、よいと思っている。

大熊教育長 ほかにあるか。
どうぞ。

福元委員 日本文教出版、教育出版、光村図書、これは半紙の中心線が書かれている。字形を整え、バランスのよい字を書くために中心を意識するということは非常に重要だと考えている。教育出版と日本文教出版は、手本ではなく、隣のページに中心線が書かれているのだが、光村図書は左下に縮小した手本の字が中心線とともに書かれている。児童がお手本のページを見ながら中心線を意識できるという点がとてもよいと思う。

大熊教育長 なるほど。線がないのであるね。中心線があるやつとないやつが、ちょっと気がつかなかった。

鮎川教育長
職務代理者 ただ、中心の小さな三角はよく見ると。

福元委員 横に。

大熊教育長 ああ、小さな三角がある。これもそうだ。小さな点があるだけだ。

岡村委員 あ、ほんとだ。それは全然気づかなかった。

大熊教育長 あ、ほんとだ。一長一短あるというところだが、どうするか。先生方が使いやすいという点では、教科書の出てくる短歌が実際の手本になっているということを考えると、また、中心線等がある教科書ということになると、教科書にそろえて光村ということになるが、いかがか。よろしいか。

(委員一同異議なしの声)

大熊教育長 国語の教科書と書写の教科書が合っていることが重要だと思うので、光村図書がよいという意見で、書写の教科書は光村図書ということによろしいか。

(委員一同異議なしの声)

大熊教育長 それでは、書写の教科書は光村図書に決定する。
次、社会の説明をお願いします。

延校長 社会科の教科用図書の調査研究の報告をする。社会科の教科書は3社である。共通性のある点に関しては、文字、イラスト、写真等、工夫されていて、資料、図表がやはり工夫された提示がなされているという点である。

2つ目に、4年から6年にかけて、身近な地域、自治体、小金井市の児童にとって、かかわりの深い地域の資料や内容などが取り上げられており、興味・関心を引く資料が多く掲載されている点である。

その上で、東京書籍から特徴を話させていただく。5・6年生が上下の2分冊になっていて、軽量化が図られている。その点、持ち運びの負担が少ないと考えられる。

6年生は上下巻ではなく、歴史編、政治・国際編というタイトルがついており、順序が示されていない。政治単元を先に学んでから

歴史を学ぶという展開も可能になってくる。「つかむ」、「調べる」、「まとめる」という問題解決過程が左ページに示されていて、わかりやすくなっている。

各学年の冒頭、前学年で学んだこと、その学年で学ぶことの概要がわかりやすく示されている点がある。また、各学年の最後に、学んだことを振り返る見開きの2ページがある。さらに、6年生下には「中学校に向けて」という2ページがあり、中学校3年間を見通した概要が写真などを使って紹介されている点がある。

5年生上の国土の学習のコラムに「拡大する西之島」がある。噴火により、国土や領海が少しずつ拡大しているという内容は、児童の興味を引く内容になっていると考える。「生かす」段階がある6年の単元では、オリパラ、紛争、難民などを取り上げている。

児童の豊かな言語活動が期待でき、内容が充実している。本文は、子どもたちによる話し合い形式で学習が進められるようになっている、などの特色がある。

続いて、教育出版である。分冊ではなく1冊になっている。全体のページ数が抑えられている。6年、「ともに生きる暮らしと政治」が第1単元であり、憲法や政治の学習をしてから歴史に入る単元構成になっているため、憲法や政治について考えながら歴史を学ぶことができる。

「学びのてびき」を見れば、学習の仕方や流れがよくわかる。1単位時間の中で、問い「次につなげよう」があり、単元全体の問いに連続性があり、問題解決的な学習展開をしやすくなっている。また、時事にもつなげやすい工夫がある。「やってみよう」、「学びのてびき」のコラムの内容が大変よいと評価されている。単元の終わりにある「ひろげる」コーナーが学習をより深めさせるきっかけに使用できるのではないかと、などの特色がある。

最後に、日本文教出版社である。上下巻の分冊になっておらず、1冊で学習する順番に単元が配列されている。ミニコラムのような「学習資料」のコーナーがある。「表現する」コーナーでは、どのようにノートにまとめたらいいか、どのように話し合ったらよいかというポイントが書かれており、大変わかりやすい。イラストの児童が話し合う形で「学習問題」が示されている。

6年、歴史学習の冒頭で、「時間旅行を楽しもう」として、歴史を学ぶ上での視点が示されている点が特徴である。また、6年、歴

どうぞ。

福元委員 児童の学習意欲や社会的事象への関心を高めるために、教科書ではどのような配慮をしているか。

延校長 全社とも児童の学習意欲、そして、関心を高めるための工夫は前回の教科書よりもあると思う。迫力ある写真、そして資料、イラストなどが活用されている点が特徴である。
以上である。

福元委員 ありがとう。

大熊教育長 ほかにご質問はないか。よろしいか。
それでは、これより協議に入る。ご意見を願います。
どうぞ。

浅野委員 私としては3社を見ていて、東京書籍と教育出版がなかなかいいなと感じた。その理由を少し説明させていただく。教育出版であるが、3年次の教科であろうか。調べるということについて、具体的なスキルが丁寧に説明されているなという印象を受けた。例えば、カードに記載した情報をどのように整理していくか、いわゆるKJ法のような手法であるとか、ノートをどういうふうにとるかとか、インタビューをどのようにすればいいのかといったことについて、比較的丁寧な説明がなされていて、児童にとっても、あるいは指導する先生方にとってもなかなかいいのではないかなと思った。

他方、東京書籍であるが、先ほどのご説明にもあったが、いわゆる問題を設定する際の主体性のようなことについて考えたときに、日本文教出版は、これはつぶやきの形で問題が既に上から与えられるような形になっている。教育出版の場合は、一番最初に「つかむ」と書いてあって、その下に「問題をつくる」と書いてあるんだけど、教科書の本文のほうには「問題をつくる」ということはあまり出てこない。東書のほうは、ほとんど各ページに「つかむ」のところで「問題をつくる」という言葉が出てきていて、問題を設定するというところにおける児童の主体性を一番引き出すような形になっているという点で、東京書籍の教科書がとてもいいなと感じた。

以上である。

大熊教育長 このことであるね。オレンジのところ。ここが「学習問題をつくろう」という形になっているんだけど、他の教科書は初めから問題が与えられている形になっている。

浅野委員 一応、教育出版はここに「つかむ」で、最初のところにだけ「学習問題をつくろう」と書かれていて。

大熊教育長 書いてあるの？

浅野委員 書いてある。だけど、ここにしか書いてないのだと思うが、そうであるね、これ。本文のところには、学習問題は与えられる形で出てくる形になっている。

大熊教育長 主体的という一番重要なのは、社会科の場合は自分で学習問題をつくるということが非常に重要になってくる。先生たちもそういう意味では使いやすいのではないかなと思う。
ほかにあるか。どうぞ。

福元委員 取り上げる場所について、小金井の子どもたちが知っているかわりがある場所の方がよいと思う。

 日文は4年生で玉川上水の単元のところで、小金井桜の写真なんかも出ていた。それから、教育出版は5年生で、6年生になると移動教室で行く野辺山原が取り上げられていた。これは6年生で移動教室に行っているわけであるから、5年生で学習したことを現地で見学できる、そして、共通体験ができるというメリットがあるなと思った。

 また、戦後の復興の資料で、戦後すぐの様子と復興してビル街になっている写真を比べる時には、小金井の子どもたちがおそらく行ったことのある都内新宿の写真で紹介している東京書籍の方が、大阪を取り上げている日本文教出版よりは親しみをもって学習がしやすいと思う。

大熊教育長 ということは、教材からすると、どこもいろんなよさがあるとい

うことか。

福元委員 そうである。ただ、戦争直後の写真と新宿の今の写真を見たときに、子どもたちはかなり強烈に受けとめると思うので、とても身近なものとして取り組んでいくのではないかと受けとめている。

大熊教育長 わかった。ほかにあるか。
どうぞ。

鮎川教育長
職務代理者 社会は学年によって学ぶ分野がはっきり分かれているので、それぞれの学年で、私も迷った。

市民の方のアンケートでも、社会科と理科に関しては教科書ごとのご意見ではなく、社会科の6年生でのご意見、5年生についてのご意見、4年生についてのご意見と学年を分けてご意見を書いてくださっている方もいらした。教科書をご覧になった市民の方もやはり学年によっての差異を感じてくださっていると、共感をし持った。

私は単元のまとめについて着目して各教科書を比べてみた。教育長から国語の教科書のときに表現についての話があった。単元のまとめで、表現まで踏み込んでいる教科書が東京書籍と思った。例えば、1つの例として、6年生の政治・国際編の中でも、「まとめる」の中で……。

大熊教育長 何ページ？

鮎川教育長
職務代理者 94、95ページである。この「まとめる」の中の、一例であるが、話し合って整理して、意見文にまとめて発表しようという主体的な学びを意識して構成されている。このように主体的に取り組める工夫が見られたのが東京書籍と思った。

いろいろ迷った末、単元に着目してこのように申し上げた。以上である。

大熊教育長 よろしいか。
どうぞ。

岡村委員 市民の皆さんがとてもご心配なランドセルの重さで、分冊の利用

ですが、教科によって非常に難しいと思っている。また、全て分冊のほうがいいとは限らないが、5年生、6年生の教科書で、東京書籍が歴史編、政治・国際編と分かれているのだが、この分冊の意味を子供たちがわかってくれれば、これは歴史で、政治・国際と認識する。こういうのを勉強するというものなので、社会によるこの分冊はとてもいいと思った。東京書籍の歴史編、政治・国際編で分冊になったのがいいかなと私は思った。

大熊教育長 国語の場合は前に戻って学習するということもあるのだが、歴史と政治・国際では、関連するといえば関連するのだが、教科書の重さを考えると分冊もいいかなと思う。

岡村委員 そうだ。そして、何を勉強しているんだと意識してもらうのに、6年生ぐらいだったらしっかり考えてもらうのにいいかなと思った。

鮎川教育長 かなり重さが違う。
職務代理者

大熊教育長 かなり。

岡村委員 ほんとに重いし、6年生になるとほかのものも持っていかなきゃいけないので、体格が今の人たちはいいが、ちょっと骨とかが心配になるのである。

大熊教育長 医師の見地から考えるとそういうことがあるが、僕のほうもちょっといろいろ調べさせていただいたが、教育出版の最後のまとめのことであるが、例えば104ページの「まとめる」というところ、これは知識・理解のことについてまとめているという内容になっているのである。知識・理解をまとめることも確かに重要なんだけど、その点で同じところを見ていると、どっちがわかりやすいか。ここが一番わかりやすいか。元寇が終わった後の……、ごめん。武士の……、ここである。教育出版の114ページと、それから東京書籍の54ページ、この内容を見てみると、まとめのところは知識・理解をまとめるのが教育出版で、このときどんなことを思っ

いたかといって4コマ漫画にせりふを入れるというパターン。そうすると、子供の思いみたいなことが、これだと書けるんじゃないかと。知識・理解だけじゃなくて、そのときどんな思いを持っていただろうかということで自由に書けるというところは、まとめとしてはいいんじゃないかと思った。

そういうことでちょっとまとめてみると、新しい学習指導要領で、主体的・対話的深い学びを実現しようとしたとき、やはり問題を自分でつくるという視点は非常に大事だと思う。その点で、しっかり問題をつくるということが書かれている教科書は、教育出版と東京書籍。しかしながら、教育出版のほうは最初の巻頭ページだけ、全ての単元において問題をつくっているところは東京書籍、それが1つ。それから、まとめのページで、知識・理解をまとめるというページになっているのが教育出版、それから、それぞれの武士の思いを記述する、4コマ漫画を完成させるという意味で、そのときの思考・判断というか、考え方みたいなものをまとめることになっているのが東京書籍。こう考えてみると、今度の新しい学習指導要領をより実現する教科書、子供たちにとってよりよい教科書は、子供たちが問題を自分たちでつくる設定になっていて、さらにそのときの思いを表現することができる東京書籍のほうが見たいのではないかと考えるが、委員の皆さん、いかがか。

浅野委員 すまない。

大熊教育長 はい。

浅野委員 異議はないが、ちょっと1点確認だが、先ほど選定委員の先生方のご説明の中で、東京書籍の場合、6年生は分野別に分冊になっていると。どちらを先にやってもいいのだというご説明だったと思うが、そういう理解でよろしいか。市民アンケートの中で順番をどうするかということについて懸念されている方がいらっしやっただので、その点だけ確認させていただいて、私も東京書籍で異存ない。

大熊教育長 一応は学習指導要領の流れからすると、まず最初に政治を勉強してから歴史に入るという形になっていて、今のでいいのか。

浜田指導室長 私、答えていいか。一応今、指導要領の順番はそうになっている。ただ、順番の決まりというところはない。指導要領が新しくなったときに、今は政治と国際が先に書かれていると。

大熊教育長 これはどうしてそういうことになったかという、歴史を勉強するのにすごく時間がかかっている、国際理解をするところで3学期になってあまり勉強できなくなっている、それを逆転してしっかり学んでほしいという意図が裏にある。これから指導計画をつくっていく段階で、その辺はクリアしていきたいと思うが、できれば政治・国際編を先に勉強して、それから歴史に行くという形にしたいなとは思っているが、先生方はどうするか、また検討していただきたいと思っている。よろしいか、それで。

ほかの教科書は先に政治が始まっているのか。

岡村委員 分冊する意義がすごくあると思う。

大熊教育長 では、社会の教科書は、以上のことで東京書籍でよろしいか。

(委員一同異議なしの声)

大熊教育長 社会の教科書は東京書籍に決定する。

続いて、かなり時間がたっている、少し、十分に議論することは大事かと思う。今後もしっかり議論はしていきたいと思う。

続いて、地図、お願いします。

延校長 それでは、地図帳の調査研究の報告をする。2社である。

共通点。イラスト、写真、統計資料を適切に提示されており、見やすくわかりやすい。東京都、奈良、京都の高学年での学習活動に必須な都市をしっかり大きく提示している工夫がある。また、自然災害、産業、日本の歴史と結びつけた記載が詳しくある。領土に関する記載もしっかり明記されている点が共通である。

その上で、まず、東京書籍である。高所の色の濃淡がはっきりしており、山脈や土地の高低差などの様子が児童にとってイメージしやすく描かれている。4年間継続して使うことができるように随所

に工夫があり、学年に応じた使い方ができる地図帳となっている点である。写真やイラスト、表など、視覚的にわかりやすい資料が多く、世界地図がイラストになっているページがあり、児童にとって扱いやすい点がある。「まちを上からながめてみよう」、「真上から見ると地図になるよ」は、第3学年児童にとって、絵地図からの導入がしやすく、見やすさ、そして、構成がしっかりしている部分だという特徴がある。

次に、帝国書院である。地図の約束や使い方などが丁寧に詳しく説明されていてわかりやすい。地図帳の使い方が習熟しやすく、発展的な学習課題も示されている点がある。児童が地図に興味を持つことができるように工夫がなされている点がある。「広く見わたす地図」のページでは、適切な情報量の地図が地方ごとにまとめられており、児童の発達段階や学習活動の内容などに応じて使い分けることができるようになっている。「日本の首都 東京」、「東京都とそのまわり」のページは必要な情報が整理されており、使いやすい。また、各地方の代表都市の中心部の地図が大きく、わかりやすい点がある。全体的に色がすっきりしており、文字や記号などの情報を読み取りやすくなっているなどの特徴がある。

以上である。

大熊教育長

何か質問あるか。
どうぞ。

浅野委員

両者の地図とも情報量としては大変充実したものだと思うが、全体の構成を見たときに少し違いもあるかと思う。両者の構成上の工夫について、少しお聞かせいただきたい。

延校長

構成上の違いということを指摘されたので、話させていただく。

東京書籍は、「地図のぼうげんに出発」として、文字がなく、絵だけの世界地図と日本地図になっている。その後、日本の47都道府県、街を空から見たイラストがある。真上から見ると地図になるよと、児童が抵抗感なく地図へ進むことができるようになっている。

帝国書院では、世界発見と代表的な国名とイラスト、世界のこんにちはこの挨拶を紹介している。3ページ分の見開きページで日本全体を載せた上で、「地図って何だろう」、「地図のやくそく」として、

方位、地図記号と丁寧に進めている点が特徴である。

以上である。

浅野委員 ありがとうございます。

大熊教育長 ほかにあるか。
 どうぞ。

鮎川教育長 実際に学校の現場で子供たちに接している校長先生方にお伺いし
職務代理者 たいのだが、児童にとって、授業の中で扱いやすい地図帳というの
 はどのようなものとお考えか。

延校長 まず、わかりやすく、そして必要な情報があるということが大
 きいと思う。ただ、情報が多過ぎてもちょっと混乱するということ
 があるので、あと、やはり色がすっきりしているといった部分が大
 きな点になるかと思っている。

以上である。

鮎川教育長 ありがとうございます。
職務代理者

大熊教育長 ほかにはないか。よろしいか。
 それでは、協議に入る。ご意見を願います。
 どうぞ。

福元委員 子供たちが地図を見るときに、まず見やすいということが大事な
 んじゃないかと思う。

 ちょっと地図を見ていただきたいんですが、多分子供たちは、東京
 はどこだ、小金井はどこだとまず一番先に見ると思う。東京書籍の
 45ページ、帝国のほうは59ページが東京、小金井が出ていると
 ころであるが、これを見たときに、どっちが見やすいのかなとい
 うことで、この地図の見やすさというのが1つ比べるのに参考になる
 んじゃないかと思う。小金井も両方とも出ているが。

 それから、もう一つは、東京も西のほうに行くとなくなっていく。
 高地と低地の違いであるが、その辺がどっちが見やすいかというこ

とも含めて、見方にもよると思うが、私は帝国のほうが何か見やすいような感じで見ている。皆さんも是非確認していただきたいと思う。

以上である。

大熊教育長 確かにこっちは山があるとわかる。こっちはわかりにくい。ここか。

今年の夏にコンピューターが全校に入ると、地図の扱い方が少し変わってくると思う。細かく見るというんだったら、いわゆる地図ソフトを使えば細かくは見ていけるので、この地図の扱いというのは全体を俯瞰するというところに焦点が当てられると思う。そうすると、全体を俯瞰して大体どうなっているのかというのが一発で子供たちの目に入ることが重要で、どちらかというあまり細かく描いていなくても、全体を把握するということが大事だとすると、どういう高低差があるかというのを一発で見られるとしたら、今回、これで見ると帝国書院のほうが見やすいと思われるが、いかがか。

浅野委員 よろしいか。

大熊教育長 はい。

浅野委員 私も福元委員と同意見である。これは色使いの問題なのか、字の配置の問題なのか、細かいことはわからないけれども、両者見比べてみると、帝国書院の地図のほうが、例えばある地名を探すように言われたときに見つけやすいと思う。また、今おっしゃられた高低差も、東京書籍のほうも高低差をきちんと示されているが、直感的に捉えやすいのは、やはり帝国書院だなという印象を私も持った。

以上である。

大熊教育長 それでは、これはかなり差があるように思ったので、子供たちがより使いやすいという形では帝国書院がよいという意見が多いので、地図は帝国書院でよろしいか。

(委員一同異議なしの声)

大熊教育長 それでは、地図は帝国書院に決定する。
次に、算数の説明をお願いします。

所校長 小学校使用、算数教科用図書の調査研究の報告をする。全6社である。

まず、東京書籍についてである。身近な題材を教材化し、学習内容を日常生活に生かす工夫が多い。1年、「さんすうのとびら」は分冊、大判になっている。教科書に直接ブロックを置いて操作できる書き込み式で、入門期に活用がしやすい。教材や資料が見やすい。絵や写真も大きくわかりやすい。「学びのとびら」や、「今日の深い学び」には、計算、作図などのノートのとり方の紹介があり、学習の振り返りを促しているなどの特徴がある。

次に、大日本図書である。巻末に算数で使う大切な考え方や説明の仕方の例示があり、それを使って児童が話し合えるようになっている。説明を求める問題が多く、数学的な見方、考え方に重点が置かれている。作図の仕方の説明に写真が使われていて見やすい。他社は6年以外上巻・下巻に分かれているが、唯一全学年年間1冊にまとめてある。学習の見通しが持てるが、1冊当たり幅が太く重いなどの特徴がある。

続いて、学校図書である。教科書が縦B5、横A4と幅が広く大判になっている。児童が教科書に書き込めるようになっており、余白があつてすっきりと見やすい。単元名は、「分数の掛け算」が一般的であるが、「分数同士の掛け算の意味や仕方を考えよう」といった学ぶ狙いを示したものになっている。独自のキャラクターである算数モンスターを使って、数学的な物の見方、考え方を表示している。5年、「単位量あたりの大きさ」の単元が唯一1学期に配列されているなどの特徴がある。

続いて、教育出版である。巻末の学びの手引きが充実していて、既習事項が見直しやすい。数直線の書き方やコンパスの使用法、分数や小数の計算の仕方などを見て振り返ることができる。「算数ワールド」では、次年度の学習内容や社会科の問題、歴史など、他教科との関連を図った発展問題が充実している。キャラクターや挿絵が手描きである。これは障害がある人が描いた絵で、見た目が優しいものになっているなどの特徴がある。

続いて、啓林館である。1単位時間の問題量が多い。QRコード

が多く掲載されており、家庭でもデジタルコンテンツへのアクセスが容易である。各単元で使える切り取り資料が多く、具体物を使って理解を促せる。「ひろがる算数」において、キャリア教育の視点で、さまざまな職業の方から算数がどんなところに使われているのかを聞いた話が掲載されているなどの特徴がある。

日本文教出版である。単元導入前に、「次の学習のために」という項目で既習事項の確認をするページがある。計算の仕方や考え方のページに解き方のアドバイスがわかりやすく吹き出しで掲載されている。巻末の補助教材や学び方ガイドが充実しているなどの特徴がある。

報告は以上である。

大熊教育長

ありがとうございます。それでは、質問のある方、お願いします。どうぞ。

鮎川教育長
職務代理者

所委員長から、最初にご紹介頂いた保護者の委員のご意見としての生活とリンクされた教科書がよいと伺った。算数においては、日常生活との関連で問題を捉えることが大切と私も思っているが、教科書ではどのように工夫されているか。

所校長

特に学習の導入において工夫が見られた。どの教科書も日常の事象や生活から問題を発見し、算数の問題として取り上げる工夫がされていた。また、データの活用や統計資料の扱いにおいても、身近にある事象から目的意識を持たせる工夫や、今日的な課題をテーマとして取り上げる工夫が見られた。

鮎川教育長
職務代理者

ありがとうございます。

大熊教育長

ほかにあるか。どうぞ。

浅野委員

小金井市の小学校では、現在、算数については習熟度別の学習が行われていると思う。そういった観点、あるいは個に応じた学習という観点から見た場合、今回の教科書はどういう扱いになっている

のかということを少し教えていただけるか。

所校長

各教科書における扱いを簡単にご説明する。

東京書籍は、巻末に補充問題と発展問題を設定しており、個別に選択して学習ができる。大日本図書は、巻末の発展問題が充実している。全学年の学習内容が確認できるようになっている。学校図書は、6年教科書に「中学校へのかけ橋」という別冊があり、6年間の学習のまとめと発展的な問題が充実している。教育出版は、考え方のヒントになる吹き出しが多くなっている。啓林館は、巻末の算数資料集が充実し、数学的な見方・考え方の定着に役立つ。日本文教出版は、単元末の練習問題は少なく、巻末で習熟度に分かれた補充問題が充実している。

大熊教育長

ありがとう。よろしいか。

浅野委員

はい。ありがとう。

大熊教育長

それぞれ工夫されてはいる。

もう質問はないか。

それでは、これより協議に入る。ご意見を願います。

どうぞ。

福元委員

教科書の巻末に切り取って学習に使う教材がある。これは各教科とも大変工夫されていた。具体的な操作を通して算数の理解を深められるので、このような教材は大変よいと感じた。

大熊教育長

こういう資料であるか。

福元委員

はい。

大熊教育長

これはどこもいろいろ、今までこういうことはあまりなかったと思うが、実際に資料がどこにも載っていて、活用しやすくなっているというのは事実であった。あまりここで差が出なかったかなという気はした。

ほかにあるか。

どうぞ。

浅野委員

プログラミングに関する記述が、5年生、図形のところに出てきているので、小金井市はプログラミングの教育先進市だと思うので、そういったところも活用できればいいなと考える。これも各社ともにというところである。

大熊教育長

ともにである。算数はあまり差が。教科書検定を通っている教科書であるので、どれをとってもいいと思うけれども、小金井市の子供のためにより教科書という形で選びたいと思うが、ほかにないか、意見は。

どうぞ。

鮎川教育長

どの教科書もよく工夫されていてよいと思っている。

職務代理者

単元の初めに、全ての教科書がこれからの学習に見通しを持つページを設定している。その中でも、学校図書の「?を発見」というコーナーは、生活の中から疑問を取り上げ、学習につなげていてよいと思っている。

生活や学習に活用する教材の数について、東京都教育委員会の調査研究資料では、この教材数は、啓林館が134と多いので、その点では啓林館もよいと思う。

東京書籍は単元に応じて既習事項を振り返ったり、これからの学習につながる工夫もされていると感じた。東京書籍について、先ほどの浅野委員のご質問で所委員長がご回答なされた、6年生別冊の「中学校へのかけ橋」は、発展的な学習が中学校につながるようになっている。小金井市の子供たちにとってよいものは何かと考えたとき、小金井市の子供たちは市内の中学校に進む率が高いので、中学校へつながる学習がとても重要と思っている。また、小金井市の子供たちは、学習意欲が高いということから、市民アンケートの中でも、応用問題もあり、子供たちも主体的に学ぶということで東京書籍がよいというご意見をいただいている。

そのような点から考えていくと、どの教科書もよいが、今挙げた教科書の中で、特に東京書籍がよいと思っている。

以上である。

ほかにご意見あるか。よいか。

これはちょっと専門的になるが、子供が主体的に問いを持つというのは、今まで勉強してきたことと、これから勉強すること。つまり、ここまでがわかっている、ここからわからないという理解境界線をしっかり引いてあげることである。それで、今まで勉強したのはここまでだけれども、これからここを勉強するが、これはできない。じゃ、どうやったらみんなのできるかなと考えるときに問いが生まれる、これが算数の特徴だと思う。

この観点で比べてみると、やはり各社工夫はされているが、一番難しいところは、算数は、実は4年生ぐらいの段階で差が開いてしまうところがある。そこのところで丁寧に説明できる教科書が子供にとってもいいのではないかと考えている。その中でも、3桁を2桁で割る計算をするところで一番つまづくことが多い。それから、6年生の割合のところは2番目。それで、3番目が分数の計算というところになるのだが、一番最初はやっぱり2桁で割るところに大きな壁が1つあると思う。

そこをしっかりと捉えている教科書はどこかで見ると、各社工夫している。ちょっと時間がかかるが、ちゃんと見たいと思うが、さっき出てきた「？を発見」という形の問いを発見しようという、学校図書でいくと……、目次がちょっとわかりにくくなっているのである。すぐわからない。ここである。2桁で割れるというところを出ているのであるが、いきなり80枚の色紙を1人20枚ずつ分けると何人に分けられるかという問題が出ているのである。こういうふうには、一番初めから2桁で割るということの子供たちにやるという形になる。これは東京書籍であるが、黒板に問題が書いてあって、色紙が60枚ある、この色紙を1人に5枚ずつ分けると何人に分けられるかという既習の問題が書いてある。その5枚を20枚に変えたらどうなるかという問いが出てくる。20枚に変えると、ちょっとわからないよね、じゃ、これ、どうやったらいいかねという形で、既習事項と新しい学びをしっかりと対比して教科書に書いてある。

この、理解境界線を引くという観点で2つを分けてみると、教育出版は、見るとすぐわかるが、折り紙8枚を使って冠をつくることと20枚と比較してある。だから、これはどっちかというと東京書籍寄りなのではあるが、しっかりと既習事項が計算式として出ている

わけじゃない。だからこの中間。それから、日本文教出版の場合は、一番最初のところで、こうやって見ていくとわかりやすいのであるが、これも80枚を20枚で割るといっていきなり問題が出ているタイプである。既習事項が出ていないタイプ。大日本図書は、60枚を20枚で分けるという言い方。だからこっち。啓林館は、これは出ているが、式が出ていない。だから、このところを見るとわかるが、ここに問題が書いてあるのが東京書籍、既習事項も考えさせることになっているのが啓林館である。

そうやって考えてみると、しっかりと理解境界線を引いて、子供たちがこれから何を学ぶかというのを明確に捉えられる教科書となると東京書籍になるのである。今までとあわせて見ても、今回の教科書はあまり差はないのだが、今回、主体的・対話的で深い学びを促すという視点で、子供たちがしっかりと、これまで学んだ内容とこれから学ぶ内容を区別できる、理解境界線をしっかりと引ける教科書ということで選んでみると東京書籍になるのであるが、東京書籍を選びたいと思うが、委員の皆さん、いかがか。

(委員一同異議なしの声)

大熊教育長

よろしいか。

それでは、算数の教科書は東京書籍に決定する。

これは今、ちょっとほかの学年も同じような特徴になっていて、これは教科書の特徴だと思う。それをうまく使ってくれたら、主体的に問いを持てる算数の勉強が実現できると思うので、これはいい選択ではないかなと思う。

じゃ、理科、お願いします。

所校長

小学校使用、理科教科用図書の調査研究の報告をする。全5社である。

どれも児童の身近にある自然事象を主な教材とし、問題解決の手順に沿った単元の構成になっている。

まず、東京書籍である。5年の「流れる水のはたらき」の単元では、川や川岸の様子の違いを学んだ後に、その理由を解決させるために流水実験を行う構成にすることで、主体的に問題解決をさせる工夫がある。6年の「地球に生きる」の単元においてSDGsを取

り上げ、持続可能な社会について話し合うことで、自然を愛する心情を養うことができる。写真が大きく掲載されており、教材の最後まで細かく見ることができる。A4サイズの大きさである。各学年とも1ページ当たりの情報量が多くなっている印象があるなどの特徴がある。

大日本図書である。3年の「じしゃくのふしぎ」の単元では、鉄が磁石につくことを学習した後で、鉄とアルミの缶を分別する装置を6年生が発明したことを紹介し、児童が学んだことを発展的に生かす意欲が高められる内容になっている。5年の「ふりこの動き」の単元では、振り子の1往復する時間を変化させる条件ごとの実験方法を3つ並列して示していることで、条件制御の方法に着目した問題解決の力を養うことができる。6年の教材に、身近にあるプログラミングの利用を調べて発表する内容がある。問題・予想と結果が見開きのページにならないよう構成を工夫しているなどの特徴がある。

学校図書である。4年の「ものの温まり方」の単元では、ろうや示温インク、示温テープなど、さまざまな教材を用いた実験を取り上げて、観察・実験に関する基本的な技能を身につけることができる。6年の「水溶液の性質」の単元では、溶けているものを調べるための水溶液を4つに絞り込み、児童が主体的に問題解決をしやすい分量、内容になっている。6年生の教材に、プログラミングに関する教材が詳しく取り上げられている。各学年とも1ページ当たりの情報量が多くなっている印象があるなどの特徴がある。

教育出版である。自然事象の名称には黄色の網かけをしているため、児童が注目する工夫が見られた。4年の「とじこめた空気や水」の単元では、空気鉄砲に水や空気を入れた場合の玉の飛び方を比較させ、空気と水の性質を主体的に問題解決ができる内容になっている。5年の「ふりこ」の単元では、振り子の1往復する時間のはかり方をコラムで説明することで、観察・実験などに関する基本的な技能をわかりやすく学ぶことができる内容になっている。コラムが充実しており、児童の発展的な学習を意欲づけできる内容であるなどの特徴がある。

最後に、啓林館である。3年の「こん虫のかんさつ」の単元では、チョウの成虫の体のつくりを想起させて、図を描いた後で観察をすることで、成虫の体のつくり焦点を当てた観察ができる内容にな

っている。5年の「電流と電磁石」の単元では、電磁石の強さを条件ごとに、結果などを直接書き込める表が入れているため、同一の表をもとに結論を話し合うことができる構成である。手書き風の資料を掲載し、児童に親しみやすくしている。QRコードを掲載し、インターネット経由で児童が参考資料を見ることができるようになっているなどの特徴がある。

報告は以上である。

大熊教育長

ありがとう。質問はないか。
どうぞ。

岡村委員

理科においても、理科の考え方、見方を子供たちが働かせることが重要であるが、単元の構成の工夫はどうなっているか。

所校長

どの教科書も、問題、予想や仮説、観察・実験、結果、考察という理科に特有の問題解決の流れに沿ったものになっている。まとめやわかったことなど表現の違いはあるが、児童が理科の見方・考え方を意識できるような単元構成となっている。

大熊教育長

あまり差はないのである、その点では。

岡村委員

あまり差は。でも、差がない……。

大熊教育長

そう。問題解決学習という視点では、理科が一番重要な視点になっているが、これはどの教科書もしっかりと工夫されているという気はする。

ほかに質問はあるか。

どうぞ。

福元委員

日常生活や社会との関連を図り、科学への関心を高める工夫はされているか。

所校長

どの教科書も科学への関心を高める工夫がされている。6年の教科書から示すと、東京書籍は最初の2ページを使って、日常の生活に役立っている科学技術を医師や建築家などの専門家が解説して

いる。大日本図書は、最初の4ページを使って、6年生で学習する内容が全て私たちの生活と環境に関連していることに気づかせるよう工夫している。学校図書は、歴史上の科学者の肖像と言葉を表紙と裏表紙に掲載している。教育出版は、2人の宇宙飛行士からのメッセージを最初と最後に各1ページ掲載している。啓林館は、空気、生物、水、大地の4つの写真を示し、生命と環境とのかかわりを調べようと呼びかけている。

大熊教育長 差が開かない。

岡村委員 差がない。

大熊教育長 困る。
ほかにないか。もうよいか。

岡村委員 ほんとに差がないと思う。私は、理科というのはやっぱり科学的な考え方を順序立てて考えるというのが一番大切で、その手順を教えるのが理科だと思っている。なので、問題を出して、予想して、計画して、その結果を考えるという点においては、全ての教科書に差がない。とても理科の考え方にのっとった教科書だなと思って、ほんとに差がない、みんないいなと思って、この理科の考え方をほかの教科に持っていくと言うとおかしいが、自分で頭の中で予想を立てて結果を見るという、理科の勉強は他の教科の考え方にすごく役に立つなと考えさせられる教科書であった。

大熊教育長 それはよくわかるのであるが、選ばなくちゃいけない。
ほかにご意見。
どうぞ。

浅野委員 ちょっと申し上げにくいですが、これも各社ともにということであるが、確認のために、プログラミングの話が理科の教科書にやっぱり出てきていて、6年生の電気の事項を扱うところで出てくる。これもプログラミング教育との連携で利用し得るいい教材かと思った。

大熊教育長 各社ちゃんと載っているのである。

これじゃ決まらないのだが、どなたかご意見ないか。

鮎川教育長
職務代理者

先ほど、社会で迷ったときは単元のまとめという観点から見たので、理科も単元のまとめという観点から見た。

大日本図書の「確かめよう」、「学んだことを生かそう」というページが大変よい。東京書籍でも同じように「確かめよう」、「考えよう」、「振り返ろう」とあり、そして、啓林館でも同じように、「確かめよう」、「活用しよう」とあり、どの教科書も大変工夫されているので、大変悩ましいところである。

大熊教育長

どなたか、ご意見。

岡村委員

大日本図書の「りかのたまてばこ」、「サイエンスワールド」とかがちょっと工夫されているなど感じて、その「サイエンスワールド」、「りかのたまてばこ」の中にE S Dと環境、防災などに関連するマーク、この項目は環境である、防災であると書いてあるのが、ちょっとほかのところと違うかなと思ったが、ほんとに差がない。

大熊教育長

算数も実は同じようなところで、ほんとに細かいところを見ていくしかなかったと思うが、今回、僕も理科の専科をずっとやっていて、どれが使いやすいかと考えてみた。保護者の方からの意見があったように、生活の中から問題を取り上げて、それを理科の実験につなげていくという考え方、ここで差が出るように思ったので、ちょっと紹介させていただく。先ほど出ていたが、6年生の「てこ」の教材の取り扱い方で、生活と密着しているかどうかというところに差があるように思う。

これを全部比べてみたい。実際にてこを使っている写真が出ているのと、この会社はくぎ抜きであるが、最近くぎ抜きってあまり使わないかなと。電動のねじのほうが多くなっている。それから、この会社は自分では持ち上げられないものを持ち上げるという形になっている。生活に密着しているかという点で、てこが一番使われるのはどこかなと思ったら、この2つじゃないかと思う。災害時で、60キロの重さのロッカーが倒れているのをいとも簡単に持ち上げられるよというのと、こちら側は大きな石だと思うが、それが倒れているのをみんなで持ち上げていると。こうやると簡単に持ち

上がるんだよね、どのようにするとより軽く持ち上がるだろうか問
いかけると、実験したいなという気持ちにはなるんじゃないかと思
ったのである。

これは、ここに東京消防庁と出ているのである。東京消防庁の人
が防災訓練に出てきていると思うが、なかなかこれは、どうして持
ち上がるのかというのは、ちゃんと身につけておいたら人命救助で
きるよねというのにつながっていく。子供たちの意欲が盛り上げる
ことができるかなと思ったのである。

もう一つ、具体的に話をすると、水溶液の性質というのが6年生
の理科の中で最も細かい実験をするという、子供たちが一番おもし
るがる場所である。これは問題を見つける感じである。これは今
の東京消防庁が出ていた大日本図書の取り上げ方であるが、ほんと
に専門的になるので、ちょっと説明するのが難しいのだが、先生方、
こうやって見ていて、どれがどれかとか、どれがどういう性質を持
っているかと調べる単元である。これは見た目ですれだかわかるか
といったときに、一番初めに蒸発実験をしているのである。蒸発実
験をしていて、何かにおいもするし、泡が出ているし、だけどみん
な違う性質を持った水溶液なんだけれども、蒸発させてみたら3つ
が何も残らなかった。でも何か溶けていたんだぞということになっ
たときに、何か溶けていたんだらう、これは何なんだとなると、調
べてみたいという気持ちになるわけである。

これと同じことを全部ほかの教科書を見てみると、これは蒸発実
験をさせた後に問いを持たせる方法だけど、ほかの教科書はいきなり
5種類の水溶液を比べてみようとなるのである。比べてみようとい
うと、知っている子は、ある程度予想することができるが、何も
知らないで予想しようになってしまうのは全く想像になってしまう
のである。こうすると、これはちょっときついのである。塾で習
っている子はもうわかってしまうのであるが、塾で習っていない子
は何を言っているのかわからないということになる。学校図書は、
「調べていこう」でいきなり水溶液に溶けているものは何か調べよ
うという型である。だから、問いを立てるという意味では、やらせ
てしまう型、それから、いろんな水溶液の違いで調べてみようとい
う啓林館は、これは何だろうかといって、同じように蒸発実験をさ
せてから調べるというタイプである。だからこっち側。それで、も
う一つは、これは何だろうの問題になっているのでこっち側。そう

すると、こっちはちょっと難しい。するとこの会社とこの会社だけが蒸発実験をやってからということになる。そうすると、この2つの会社のどちらがいいかなとなって、さっきの災害の單元では、どちらかという災害の写真はこっちである。そうすると、両方そろっているのが大日本図書ということになる。主体的、対話的深い学びを実現しようとするとき、ちょっとほんとに専門的であるが、こういう單元構成になっている大日本図書がふさわしいのではないかと思うが、委員の皆さん、いかがか。

よろしいか。差がないので、どれを選んでもいいが、ほんとに細かいところで、専門的などころであるが、ここは先生方にもこの單元構成のあり方を学んでいただくことも重要だと思うので、理科の教科書は大日本図書にしたいと思うが、いかがか。

(委員一同異議なしの声)

大熊教育長 それでは、理科の教科書については大日本図書に決定したいと思う。

開会から2時間がたったので、おおむね10分間休憩する。再開は40分、あの時間でいくと42分にしたいと思う。傍聴人におかれては、公平・公正な審議のため、休憩中についても教育委員会委員及び私、教育長への話しかけはご遠慮いただくようよろしくお願いいたします。

10分間の休憩としたいと思う。よろしくお願いいたします。

休憩 午後3時30分

再開 午後3時40分

大熊教育長 それでは、再開する。
次に、生活の説明をお願いします。

延校長 生活科の調査研究の報告をする。全7社である。
どの教科書にも共通する点に関しては、学年、季節に応じた教材の工夫がある。ユニバーサルデザインの文字を使って見やすくしている。QRコードがあり、教科書に関連するコンテンツを活用することができる。また、写真やイラストが多く、視覚に訴える資料が

多い。

その上で、東京書籍である。種の生長が一目でわかる工夫がされている。簡単な図鑑が巻末に付属されているので、気づきの質が高まるとともに、楽しく調べ学習ができるようになっている。「ほんとうのおおきさ ポケットずかん」がついており、観察などに持って行って使うことができる。春夏秋冬の植物に関する図鑑があり、実物大で載っているため、参考にしやすいといった特徴がある。

次に、大日本図書である。活動している児童のイラストに外国人の児童がおり、学級内に外国籍の児童がいる状況にも配慮されている点がある。巻末に動植物の図鑑やはさみなどの道具の使い方が掲載されており、活動の際の助けとなる。学校探検では、カメラの形のカード入れがあり、1年生の発達段階として焦点化して見ることができるなどの特徴がある。

学校図書である。町探検の単位では、身近な公共交通機関であるバス、電車の乗り方が載っていて、実生活でも経験を生かすことができる。各単元に「ものしりノート」の箇所が設けてあることで、何をどのように書けばよいのか、児童にわかりやすくなっている点が特徴である。また、植物の育て方や遊び方、おもちゃのつくり方など詳しく書かれている点がある。巻末の生活科学び方図鑑や安全のページがあるのが、いい点として特徴がある。

次に、教育出版である。絵や写真に、違う民族の子や車椅子の子が仲間として入っていたり、地域のお年寄り、外国の人が登場したりとさまざまな人とかかわり合いを持つことの楽しさを感じられるようになっている点が特徴である。2年生の町探検では、商店街、消防署、図書館などの見学の様子が入っていて、わかりやすい。周辺物などでの遊び、工作の例が豊富で、わかりやすい絵で表現されている。巻末に「学びのポケット」というページがあり、活動のコツが確認できるようになっているなどの特徴がある。

次に、光村図書である。動植物とのかかわり、制作の工夫、地域の施設や人々とのかかわり、自分の生活を振り返り成長を確かめるなど適切に取り上げられている。ホップ・ステップ・ジャンプの構成になっていることで、苦手な児童だけでなく、得意な児童にも対応した内容になっている。見つける、そして体験、思い出す、もっとやってみるという大きな流れで各単元を進めており、低学年の児童が学習の見通しを立てやすい点が特徴である。

次に、啓林館である。動物と仲よくなろうの単元に、見開きで命について考えるページがあるなど、知識だけでなく心を育てることを意識できるようになっている。おもちゃづくりでは、イラストと文章で説明されているので、イラストを見ながらつくることができる。巻末に学習図鑑が掲載されており、児童が生活科の学習をするための手助けとして活用できるなどの特徴がある。

最後に、日本文教出版である。要所要所にアレルギーや注意事項に関するマークが配置されており、安全に配慮されている点の特徴である。「じぶんでできることずかん」で、ちょうちょ結びの仕方やぞうきんの絞り方などが記載されているところがよいという指摘もあった。また、「ちえとわざのたからばこ」があり、気持ちの使い方や話し方、聞き方など、学習や生活の基本についても指導しやすく書かれているなどの特徴がある。

以上である。

大熊教育長 ありがとうございます。何か質問はないか。

鮎川教育長
職務代理者 生活科では、具体的な活動や体験を通して生活上必要な習慣や技能を身につけることが大切と思っているが、教科書ではどのような工夫がされているのだろうか。

延校長 各教科書、どの教科書も1年生、学校生活の成長に沿った構成がなされている。2年生、調べ方の方法の具体例が例示されていたり、さらにはわかりやすく学習できるように工夫されている。また、資質、能力などの3つの柱が吹き出しや表現作品で具体的に示されている点や、何ができるようになるかということを経験がイメージしやすいように工夫されている点の特徴である。

以上である。

鮎川教育長
職務代理者 ありがとうございます。

大熊教育長 ほかに質問はないか。

福元委員 身近な人々や地域の人々とのかかわり合いを持たせること、具体

的な活動や体験を通すことについて、どのように扱っているか。

大熊教育長 各社とも適切に設定されていると思う。地域の人々が利用する施設について調べる、そしてインタビューをして話を聞いたり、まとめたことを発表するなどという配列になっている。大変活動が進めやすく配列されていると考える。

以上である。

福元委員 ありがとう。

大熊教育長 ほかに質問はないか。よろしいか。

それでは、これより協議に入る。意見を願います。

鮎川教育長 生活のどの教科書もとても充実した内容で、きれいな誌面でとてもよいと感じている。生活科を学ぶ子供たち、保育園、幼稚園、または家庭から小学校に入学し、その導入を考えると、東京書籍、啓林館、光村図書、日本文教出版、この4社が印象に残った。小学校に入学したばかりの児童は、新しい学校生活に不安があると思う。子供たちの笑顔の写真や、とても楽しそうに活動する写真がたくさん掲載されていて、学校生活や学校での学習に見通しを持って安心できると思った。

以上である。

大熊教育長 ほかにないか。

岡村委員 どの教科書も低学年の児童が学習に取り組みやすいように構成などが考えられているが、小さい子がよくわかるように吹き出しをたくさん使っている教科書が東京書籍、大日本図書、啓林館、光村であった。そういう吹き出しを見ながら、子供たちが教科書をヒントにたくさん、いろいろなことに気づいて成長していってくれればよいと思うので、吹き出しはよい使い方をしていると思ったので、東京書籍、大日本、啓林館、光村図書のどれかがいいと思った。

大熊教育長 ほかにないか。

福元委員 2年生の巻末資料を見てみると、多くの教科書で学び方、道具の使い方などがまとめられている。中でも東京書籍は低学年の児童が見てもわかるように、なるべく文章を減らし、イラストを活用して、視覚的に捉えられる工夫をしている。内容もわかりやすくまとめられていると思った。

鮎川教育長
職務代理者 ただいま福元委員からの2年生の巻末資料の話が出た。1年生の巻末資料も拝見したところ、資料が良く、工夫されている。植物や生き物の図鑑については、東京書籍の「ほんとうのおおきさ ずかん」が実際の大きさのとおり書かれており、1年生の導入部分としては大変わかりやすいと思う。

日本文教出版では、このように季節ごとの植物の写真がたくさん載っている。

1年生の巻末資料については、2社がとてもよいと思った。

大熊教育長 どうするか。

浅野委員 生活科は一、二年生向けの科目なので、教科書をぱっと開いたときに子供の心をぐっと掴む魅力が必要かと思うのだが、東京書籍の場合、各社中最大の判型の教科書になっていて、そのサイズ、大きさを最大限生かす写真やイラストの配置になっている。これは子供が見たときに、まず、心を奪われるような魅力的な構成になっているのではないかと感じた。

以上である。

大熊教育長 では、どうするか。

どれがいいかと検討してみたが、今、出ている東京書籍の、2年生になって生活科を始めたときに、野菜を育てようという単元があるのだが、野菜を育てようという単元の中で比べてみると、問いかけの仕方がまず、違っている。

東京書籍の問いかけの仕方は、この辺が主体的ということにつながると思うが、野菜を見て「何にしようかな」という言い方をしている。それで、「何にしようかな」という問いを覚えておいていただきたいのだが、ほかの教科書でいくと、「皆で育てて食べたいな」となると、食べることを、何となくやりなさいというのが見

えてくる。「何を育てようかな」、これは光村である。これも「何を育てようかな」と、このページを見て、子供たちが育てたくなるかということなのである。

これとこれを比べてみていただきたい。どちらが食べたくなるか。子供たちはこのページを見るわけである。そうすると、こんなものができるのかと思うというのは、見てみると、これはどちらかというと、どちらかわかるだろう。これは啓林館であるが、「育てたい野菜を選ぼう」になってしまう。「選ぼう」というと何となくやらせる感じがするのではないか。

もう一つ、比べてみると、野菜を育てるときに、育て方がちゃんと書いてある教科書を調べてみると、実は教科書によってはかなり差がある。啓林館は名人を呼んで聞こうというタイプになっている。日本文教出版は、これも名人を呼んで聞こうということで細かくは書いていない。教育出版は最初のページが育てたいという気持ちが少なくなってしまうが、ここのところは、虫がついたときのやり方が少し書いてあるのである。光村はここのところでアブラムシの駆除や脇芽をとる、支柱をつけるなど具体的に書いてある。

だけど、一番最初のページのところで、先ほどと比べてみると、このページで育てたいという気持ちはどちらが強いかというと、もう一回見てみると、これが強くないか。それで、ちゃんと呼び方が書いてあるのは、光村と東京書籍が最も細かく書いてある。ここに、脇芽を摘むや草を取るなど6項目書いてある。これは1項目だった。ここは4項目である。これは6項目書いてあるのだ。

そうすると、最近の先生はこういうことがしっかり書かれているほうが、子供たちにとっては育てやすいのではないかと思うので、このことが書いてあれば、先生方もこれをちゃんとやれると思うので、最近の先生方は本当に申しわけないが、あまりやったことのない人も多いので、しっかりと記述してあって、これに沿ってできたほうが僕はいいのではないかと思う。

そういう意味では、子供が主体的に野菜を育てることに興味を持ちやすい教科書としては東京書籍で、育てる内容を細かく書いてあるのも東京書籍である。ほかのところだと、そう差はないが、このことだけ1点に絞ってみると差があるのだ。

皆、いかがであろうか。

岡村委員 これは本当に見やすい。

大熊教育長 見やすい。

岡村委員 ほかに比べて、少し大きい、大きくした理由がよくわかる。とてもきれいである。

大熊教育長 浅野委員が言われたように大きさを生かした形で編集されていると思うので、子供たちに対するインパクトは東京書籍が優れていると思うが、小金井の子供たちのために東京書籍を選びたいと思うが、いかがであろうか。

(委員一同異議なしの声)

大熊教育長 では、生活科の教科書は東京書籍に決定する。
次に、音楽の説明をお願いします。

延校長 それでは、音楽の調査研究の報告をする。

音楽は2社である。2つの教科書に共通する点、挿絵、写真などが多く、また、オリンピック・パラリンピック協議との関連性も載せてある。児童の生活や身の回りのことなどから気づきを促す工夫も見られる。QRコードが掲載されていて、ICT機器、そしてインターネットを活用した学習が展開できる点が特徴である。

その上で、教育出版である。歌唱、器楽、鑑賞のそれぞれに発達段階に即した魅力的な教材を設定している。特に低学年には、体を動かしながら取り組む教材が多く、基礎、基本を楽しみながら身につける工夫がある。楽器図鑑では、打楽器奏法やばちの持ち方など日本の伝統楽器が写真でわかりやすく解説されている。鑑賞教材が歌唱教材や器楽教材の間にあるので、鑑賞とその他の活動を連動して学習できる点が特徴である。リコーダーの運指表が巻末の折り込みページに掲載され、開いて参照しながら練習できるように工夫されている。また、どの学年にも英語の歌が掲載されており、異文化や多言語に触れたり、慣れ親しむための工夫が見られるなどの特徴がある。

次に、教育芸術社である。低学年では童歌や遊び歌が掲載されて

おり、楽しみながら音楽に親しむ工夫が見られる。また、低学年では、五線譜ではなく第一線、第二線のみで示され、音の高低がわかりやすく工夫されている。五、六年の巻末に掲載の合奏、合唱曲が充実している。高学年では学校行事での発表などの機会も多いので、それに活用しやすい。1年の鍵盤ハーモニカ、3年のリコーダーなど、楽器の写真を大きく基本的事項がわかりやすく示されている。また、4年の琴は手のアップ、具体的な奏法が写真でわかりやすく解説されている。高学年では、歴史的な側面や外国の楽器、楽曲、我が国の歌舞伎などが取り上げられ、興味、関心が広がるように工夫されている。「歌いつなごう 日本の歌」では、季節や年中行事に応じて日本の歌を紹介したり、歌ったりすることができる特徴がある。

以上である。

大熊教育長 ありがとう。質問はないか。

岡村委員 楽譜の見方や曲のイメージを膨らませる工夫は、2社はどういう対応しているのだろうか。

延校長 それでは、2社のそれぞれの工夫を簡単に紹介させていただく。
まず、教育出版では、拍をタンとしてマークして表現している。手拍子の楽譜を上下に併記してわかりやすくする工夫が見られた。
教育芸術社のほうでは、楽曲によってイメージイラストが効果的に使用されているように感じる。例えば、3年、ウサギでは大きなイラストとともに、コラム十五夜の話とお月見のお供えの写真が掲載されている。
以上である。

大熊教育長 ほかにあるか。

浅野委員 日本の伝統文化との関連という観点から見たときに、どういう特徴があるか。

延校長 先ほどの調査研究の報告からあったが、どちらの教科書にも伝統文化に関して重視している点が見られる。例えば、教育出版では日

本の歌、みんなの歌という包括的なテーマと共通テーマが設定されている点である。特に6年では見開き、朧月夜が作詞、作曲者の資料とともに掲載されている点。

教育芸術社では、例えば、6年、日本の古典芸能において、見開きで多くの写真を掲載して、古典楽器が紹介されている。さらに、ページ下には日本史年表が掲載されている点も特徴である。

以上である。

浅野委員 ありがとう。

大熊教育長 ほかにあるか。よろしいか。
それでは、協議に入る。ご意見を願います。

浅野委員 2社の教科書を見比べてみて、なぜそういうことになるのか、そのメカニズムはよくわからないのだが、楽譜の見やすさに差があるように感じた。教育芸術社の楽譜のほうが、これはなぜそうなるのかわからないのだが、すっきりして見やすいように私は感じた。

大熊教育長 それは僕も感じた。どこがどうしてなのかわからないのだが、なぜだろう。

岡村委員 見やすい、確かにそうである。

大熊教育長 ほかにあるか。

岡村委員 私は教育芸術社がすごく全体的に写真や絵を見て、曲のイメージを持ちやすいと感じた。まず、写真を出し、それもいい写真で、それから次に曲を出して、なので先に芸術的に茶摘みの写真や海の写真を見て、すごく盛り上がったところに楽譜を見て、下に楽譜が書いてあるという感じで、すごく音楽は芸術だと感じた。海のところでは、空に歌詞が白い文字で書かれていて、雲を連想させるようになっていて、本当にいい写真で、心が洗われる気になって、子供たちがうちに帰って、「お母さん、海の写真だよ、夏だよ」といって、うちの人に見せたくならないいい写真だと思って、楽しく音楽が勉強できるかと思って、教育芸術社が好きである。

大熊教育長 同意。申しわけない。誘導したわけではないのである。
では、今までの意見をまとめてみると、教育芸術社がよいという意見が多く出されているので、音楽の教科書は教育芸術社でよろしいか。

(委員一同異議なしの声)

大熊教育長 それでは、音楽の教科書は教育芸術社に決定する。
次に、図画工作の説明をお願いします。

所校長 図画工作の教科用図書の調査研究の報告をする。
新学習指導要領では、造形的な見方、考え方を働かせ、生活や社会の中の形や色などと豊かにかかわる資質や能力を育てること。自分のイメージを持つことがうたわれている。全2社であるが、どちらもそれを踏まえた構成となっている。

開隆堂である。みんなのギャラリー、造形の引き出し、小さな美術館のコーナーを設けて、鑑賞力の育成に力を入れている。他教科とのコラボレーションを取り入れている。自己選択して、発展させていけるよう、さまざまな作例が載っており、主体的な学びにつながる。同じ表現が続かないように、立体、平面、造形遊びのバランスがよく構成されている。児童の実態に合わせて選べるように考えられた分量である。レイアウトにメリハリがあり、児童が使いやすくなっているなどの特徴がある。

日本文教出版である。発達段階に応じた教材が多い。学級担任が行う図工の授業でも扱いやすい内容が多く、制作のプロセスを詳しく載せている。鑑賞分野では、近代作家の作品の紹介が多く掲載されていて親近感がわく。低中学年で、繰り返して同じ教具を扱う教材があり、積み重ねた学習ができる。平面、立体、造形遊び、鑑賞とバランスよく構成されている。巻頭と巻末に意欲を引き出す具体的な技術や方法が豊富に示されているなどの特徴がある。

報告は以上である。

大熊教育長 何かご質問はあるか。

鮎川教育長 図工ではものをつくり出す喜びを味わうことが大事だと思うが、

- 職務代理者 教科書ではどのような工夫があったか。
- 所校長 開隆堂では、動きのある児童の写真を使って、楽しさや躍動感を感じさせる題材を載せるなどの工夫がある。日本文教出版は、教科書を開いたときに視覚的にわかりやすく構成しているので、意欲をかきたてられる。また、巻頭と巻末に児童の意欲を引き出す具体的な技術や方法を示している。
以上である。
- 鮎川教育長 ありがとう。
職務代理者
- 大熊教育長 ほかにあるか。
- 岡村委員 図画工作の授業では、ものをつくる学習において、いろいろな用具を使うのだが、安全面についての記述はあっただろうか。
- 所校長 安全面についての記述はどちらにもあった。開隆堂は教材や用具を学年の発達段階に合わせており、安全に対する配慮が感じられる。日本文教出版は、用具の詳しい使い方、扱い方についてポイントを押さえて、危険のない配慮をしている。
- 大熊教育長 ほかにあるか。よろしいか。
それでは、協議に入りたいと思う。意見のある方はお願いします。
- 鮎川教育長 どちらの教科書も、初めに学習の目当てが示されている。図工も学習の目当てを考えて学ぶ教科と実感しているが、どのように学習を進めればよいのか、子供たちが意識して学習できるようになっていてよいと思った。
職務代理者
- 大熊教育長 両方とも目当てのところがあるのだ。ほかにあるか。
- 福元委員 2社の教科書を見ると、両者とも大変多くの作品の写真が掲載されていて、児童が想像力を働かせるよいヒントになると思われる。その中で、児童の写真を見ると、日本文教出版のほうが、児童が作

品をつくっている様子がわかり、作品のつくり方という点でもより多くのヒントが与えられるのではないかと感じた。

大熊教育長 それはあるかもしれない。それは日本文教出版のほうに焦点が当てられている感じがして、開隆堂のほうは作品をつくっている子供もクローズアップされているのである。それは気がついてきた。

ほかにあるか。

浅野委員 両者とも各単元で使用する材料や道具が単元の初めに、ページの端のほうに記入されている。具体的にいうと、開隆堂のほうはページの左上、それから、日本文教出版のほうはページの左下に記載されていて、文教のほうはいわゆるアイコン、記号的な、開隆堂のほうは絵の下に、例えば段ボールや接着剤と文字が書いてある形である。これは一長一短があると思うのだが、情報量としては開隆堂のほうが多分多いのだが、見た目、ぱっとわかるというシンプルさの点でいうと、日本文教出版のほうが見やすいかと私自身は感じた。ここが見る人によって感じ方が違うところがあるかもしれないが、以上である。

大熊教育長 ほかにあるか。

鮎川教育長
職務代理者 先ほど、私は学習の目当てに関しては、どちらの教科書もよいという意見を申し上げたが、浅野委員がイラストについてお話しになり、私も浅野委員と同じ意見を持っている。加えて、日本文教出版は開いたページ、題材のページの右下に気をつけようと片づけのコメントがついている。こちらはイラストではなく、文字で書かれているが、子供たちが安全や片づけについて意識できるように工夫されていると感じた。

ページの右下に活動のヒントが子供の言葉で書かれている。大変簡潔に書かれている。このような工夫も子供たちにとって役に立つ情報と思い、活動に取り組める手助けになると思っている。

以上である。

大熊教育長 ほかにあるか。

今の意見をまとめてみると、日本文教出版のほうがややいいのではないかという意見が多いのであるが、どうだろうか。今までの意見をまとめてみると、子供の笑顔が大きくて笑顔が多いのは実は開隆堂であるが、子供が主体的にいろいろなものに取り組んでいきたいとなったときには、さまざまな作品の紹介があったほうが、そちらにクローズアップしたほうがいいのではないかと感じた。

ほかのところは実は似ているのである。材料や云々というのも両方とも同じように書かれているところがあるので、その辺で子供たちが主体的に取り組むようになるためには、より日本文教出版のほうがよいのではないかという意見が多いようであるが、図画工作の教科書は日本文教出版でよろしいか。

(委員一同異議なしの声)

大熊教育長

図画工作の教科書は日本文教出版に決定する。
次に、家庭の説明をお願いする。

所校長

家庭教科用図書の調査研究の報告をする。全2社である。
まず、東京書籍である。技能にかかわる説明を写真つきで解説したものが巻末に整理されている。安全や環境にかかわる記号は一覧表になって、目次右端に並んでいる。「いつも確かめよう」で使われている写真が、ほぼ原寸大で掲載されており、大きさの目安、作業の目安になる。学習指導要領の改訂に挙げられた自立した消費者を育成するための単元が、5年生の前半にあるのがよい。視覚的にわかりやすく構成されており、苦手な児童にも内容が理解しやすい。A4判で、他の教科書と同じで扱いやすく、空間的にゆとりがある。ユニバーサルデザインフォントが使われているなどの特徴がある。
次に、開隆堂である。縫い物の製作例が複数示されており、児童の興味関心や実態に合わせて活用することができる。「手ぬいを生活に生かそう」の単元では、作品写真が実物大で掲載されていてわかりやすい。調理実習の後に環境を考えて工夫することが記載されている。生活の見方・考え方を4つの視点で捉え、そこから単元が構成されている。6年のまとめの時期に「持続可能な社会を生きる」が設定されており、中学校での学習につなげやすい。サイズは従来のもと同じ横広の形であるなどの特徴がある。

報告は以上である。

大熊教育長 ありがとう。質問ある方はお願いします。

福元委員 食育推進の観点について、それぞれどのような特徴があるか教えていただきたい。

所校長 食育についてであるが、東京書籍は食材や献立、作業工程を写真でわかりやすく解説し、日本の伝統というコラムや資料で食事のマナーや心遣いなどを紹介し、食への関心を高める工夫をしている。

開隆堂は、「家庭で実践しよう チャレンジコーナー」というコラムで各地に伝わる料理やおやつ、お茶、おにぎり、味噌汁の写真を紹介し、実生活とのつながりを意識させている。

以上である。

福元委員 ありがとう。

大熊教育長 ほかにないか。お願いします。

岡村委員 家庭などにおける実践を促すために、各々の教科書でどういう工夫が具体的にあるのか。

所校長 どちらの教科書にも共通しているのはQRコードで動画を視聴でき、大変見やすいことである。東京書籍は、目次にあるQRコードから動画の目次へ、開隆堂はそれぞれの学習のページにあるQRコードで動画視聴ができ、児童の実践の助けになる工夫をしている。

大熊教育長 質問はよろしいか。
なければ、協議に入りたいと思う。ご意見をお願いします。

福元委員 学習の流れについてであるが、開隆堂は学習の目当てとして、初めに3つの段階を設定している。東京書籍は学習内容をステップ1から3に分類している。どちらも児童が見通しを持って学習できる工夫がしてあるが、東京書籍は現在、どのステップにいるかわかるようにマークの工夫がある。わかりやすいと思った。

大熊教育長 1、2、3というところがあって、それが今、どこに進んでいるのかというのがわかりやすいということで、最近、担任の先生が家庭科の授業をやることも多いので、こういう流れがしっかりあるということはわかりやすいこともあると思う。

ほかにあるか。

鮎川教育長 開隆堂、東京書籍、両者共に調理の手順や買い物の手順などを2ページにわたって横方向に流れを示す工夫をしていて、とてもわかりやすいと思う。両者とも左利きの包丁の切り方などが載っている。以前の教科書は右ききだけが載っていたが、写真つきで右ききと左ききが同じ大きさと載っていることに驚きとともにすばらしいと思った。

どちらもすばしいが、あえて言うと東京書籍は、「いつも確かめよう」という項目で、随所に生活に役立つように記載されていて、子供にとって学習しやすいように感じた。

大熊教育長 ほかにあるか。はい、どうぞ。

岡村委員 家庭科ですごく大切なのは、うちでの実践をどうやるかということで、うちで実践することが食育や、そういうことを考えてもすごく大切だと思う。瑣末なことだが、野菜の切り方について、東京書籍のほうイラストもついていてわかりやすく、野菜を切るときにちょっと見るのにはいいが、教科書にこういうことが載っていたというのを知って、家庭科の実践をうちでしているという自覚を持ってもらうには、そういうものを見ながらやるのがいいので、その点では東京書籍のほうがいいかと思った。

大熊教育長 これは、これとこれ。こっちはこっち。僕もこれは、僕はキャンプをやるが、子供たちにイチョウ切りにしろと言っても誰もわからなくて、こうやってやるんだと見せないとわからないけれども、これがしっかりこういうふうに出されていると、子供たちがそれを覚えておいてくれるといいのではないかと思う。

最近、インターネットを通じて料理のことが紹介されることが多くなっているが、そのときに何切りとわかるということは結構重要

な視点で、生活に生かせるという気がする。そのときにどう切ったらいいかというのは、こっちは結構書いてあって、こっちはどう切ったらいいかは、切った後は書いてあるが、どういうふうに切ったらいいかは書いていないので、そのところは違いがある。

ほかにあるか。はい、どうぞ。

浅野委員

先ほど福元委員がおっしゃられたこととも重なる部分があるが、東京書籍の教科書はナビゲーションとして非常にすぐれた個性を持っていると思う。つまり、自分が今、どこにいるのかということがいつもわかる構成になっていると思う。自分が今、どこにいて、何をやっているところなのかが一目瞭然でわかる。例えば、「話し合う」だったら、「話し合う」というパートがそれとしてきちんとまとまりを持って配置されている。その点が開隆堂に比べて非常に見やすい印象を与えていると思う。児童にとっては、これは道に迷わない、自分がやっていることをいつもつかみながらやっていける、そういう教科書だと思った。

大熊教育長

開隆堂も、その点も書いてあるが、見にくい。

浅野委員

はい。視覚的にきちんとまとまりになっているところは、東京書籍の見やすい理由だと思う。

大熊教育長

それでは、ここは東京書籍のほうがよいという意見が多く出されているので、家庭科の教科書は東京書籍でよろしいか。

(委員一同異議なしの声)

大熊教育長

家庭科の教科書は東京書籍に決定する。

次に、保健の説明をお願いします。

延校長

それでは、保健の調査研究の報告をさせていただきます。

保健の教科書は全5社である。どの教科書にも共通する点は、3年生は健康な生活、4年生は体の成長と私、5年生は心の健康・けがの防止、6年生は病気の予防が適切に配列されている点、教科書に書き込めるスペースを設けている点、興味、関心を持って学習で

きる写真、資料、イラストがふんだんに掲載されている点、さらには資料として有効な動画、QRコードで示し、活用しやすく表示されている点が挙げられる。その上で、それぞれの特徴を報告させていただく。

まず、東京書籍である。衛生の基本の手の洗い方が、丁寧な写真で載せられている点がある。5・6年生の教科書は、A4サイズで、ほかの4社に比べて最も情報量が多い。ただ、体育の保健領域の授業時間数を考えると、教師が取捨選択しながら資料を活用する必要もあるのではないかと考える。1時間の授業の流れに合わせて、段階的に学習の展開が示されている点が特徴である。

大日本図書である。写真が少なく、イラストが多く、親しみやすい。サイズは、横がA4の幅、縦がB5サイズと最もコンパクトにつくられている。紙面上の情報量は、さほど多くはないが、必要な内容は入っている。1時間の学習内容に応じて、「やってみよう」「話し合ってみよう」というものが進められており、活動のマークが示されている。

文教社である。写真やイラストが、しっかり多く掲載されている。5・6年生の教科書は、A4サイズで、最も少なく52ページである。学習したことを自分の生活に生かし、新しい自分にレベルアップという、知識習得だけではなく活用するのに必要なものを考えさせることができるのが特徴である。

続いて、光文書院の教科書である。なぜ、この学習をするのか、わかりやすく示されている点が特徴で、同時に単元の流れに見通しを持てるように、児童たちに見通しを持てるようにしている点が特徴である。5・6年の教科書は、A4サイズで、60ページ強である。体育の保健領域の授業時間を考慮すると、教科書だけで必要な情報が盛り込まれていると考える。「調べること」「話し合うこと」「考えること」「さらに広げよう」など、課題解決学習の流れが具体的に示されている。

学研教育である。チェックリストや、1週間分の記録をつける欄があり、日常生活を振り返りながら学習することができる。5・6年の教科書は、A4サイズで、56ページである。1時間の学習内容に応じて、「つかむ」「考える」「まとめる」、そして「学びを活用する」というマークを示しているなどの特徴がある。

- 大熊教育長 それでは、質問のある方はお願いします。
- 岡村委員 保健の教科書で密接な問題である心の健康における不安や悩みの対処について、どのように取り扱っているのか。
- 延校長 各教科書とも適切に取り上げられている。心と体が互いに影響し合っていることを理解させることから、心が成長するからこそ悩みも多くなってくるということ、そして悩みやストレスの対処の仕方は人によって違うんだということ、自分に合った対処の仕方を知ることが大切であることを丁寧に記載している。
- 大熊教育長 ほかにあるか。はい、どうぞ。
- 浅野委員 各社とも、内容は非常に充実していると思った。それぞれ構成上の工夫のようなものがあつたら、お聞かせいただけるか。
- 延校長 私も、内容はすごく充実していると考えている。単に知識の伝達だけではなく、自分の生活習慣を振り返らせるということで、課題意識を持って、教育長が言われているように、主体的に問題解決する学習過程が基本となっていると考える。ただ、中学年の2年間で、そして高学年の2年間でという制限的な時間、程度があるので、そういったことを考えると、授業で扱う内容、そして発展的に学ぶ内容はバランスよく構成されているとは思いますが、ページいかんによって考えなければならないと思っている。
- 大熊教育長 そういう点では、あまり差はない。だから、どこかここぞというところを見つけていただかないと選択できない。
それでは、協議に入りたいと思うが、よろしいか。どうぞ。
- 鮎川教育長
職務代理者 光文書院と学研は、基本的に1時間・見開き2ページの扱いになっていて、わかりやすいと思う。2社とも学習の流れが統一されているので、子供たちにとっても、先生にとっても使いやすい教科書と思った。学習の流れに見通しが持てると、子供たちは安心して学習に取り組むことができると思っている。

大熊教育長 なるほど。
ほかにあるか。

岡村委員 あまりにも内容が豊富過ぎて、これを3・4、5・6で勉強するか、すごい量だな、すごい大変だと、つくづくこれを見て思った。大変だと思う。なのに、それ以上に、現在、全国的に小・中学生にがん教育の推進が求められて、先生方、すごい大変だと思う。大日本図書は、家族ががんになってしまった話を取り上げていて、学研は発展してがんといういろいろな病気を扱っている。また、光文書院も、発展としてがんのことを知ろうと、病気についてはっきり触れている。

それぞれの扱い方によさはあるが、光文書院は日本人の死亡率の変化がグラフで示されていて、がんの死亡率が多いことを示している。もうそれぐらいわかってくればいいかなと。非常に難しいので、その図を見て、がんの死亡率が上がっているな、いろいろがんの種類や、がん検診について触れられていて、おうちの人もがん検診を受けているかなとお話しして、呼びかけてもらって、病気とはどういうものかを考えてもらうきっかけになればいいかなと思っている。

今までも学校では、心の問題とか、性別など、ドクターである自分でも、ここまで教えるのはとても難しいだろうと思うことをずっと乗り越えられていて、今度、がん教育というものが入ってきて、非常に難しい。学校医の先生や養護の先生とか、いろいろお話し協力しないと難しいと思う。そこで、まず子供たちにグラフで示して、がんの種類や、がん検診についてまで触れるということで、光文書院はがん教育においてはすぐれていると思った。これからを考えると、光文書院がいいかなと思っている。

大熊教育長 一つ一つやらなければならないが、これを見て、がんが今、日本人の死亡率で、2人に1人はがんになるという状態で、それを少しでも防ぐためにはがん検診をしなければいけない。このことをしっかり学べるのは、光文書院が一番すぐれていると思うので、問題解決学習に関してはほかのところとあまり差はないが、がん教育に関しては取り扱い方について優位性があると思われるので、保健の教科書は光文書院でよろしいか。

(委員一同異議なしの声)

大熊教育長

保健の教科書は光文書院に決定する。

それでは、初めての教科、外国語の説明をお願いします。

所校長

外国語教科用図書調査研究の報告をする。

どの教科書も、絵や文字が大きく見やすい、色使いがいい、いろいろなアクティビティがあるなど、楽しく工夫されていると思う。全7社のうち、2社、東京書籍と学校図書は大きいサイズである。

初めに、東京書籍である。全ユニットが「出会う」「慣れる」「楽しむ」「広げる」の活動になっており、段階的に学ぶことができる。東京書籍だけは別冊の「Picture Dictionary」があり、児童が家庭学習に使うことができる。「紹介しよう」「発表しよう」「伝え合おう」など、自分の言葉で説明することをめあてとした単元が多くある。「Sounds and Letters」のページがあり、文字と音の関連性の指導がしやすくなっている。現在、使用している「We Can!」に準じた関連配列になっているなどの特徴がある。

次に、開隆堂である。アクティビティが多くある。3・4年生の外国語活動の復習ページがあり、5年生の学習に入りやすい。「We Can!」の単元配列に近い。幾つかの単元の総まとめができる「project」単元が入っているため、学んだことを活用できる流れになっている。アルファベットを書くことの単元が丁寧にまとめられている。巻末に発音クリニックの付録があり、発音を意識させることができるなどの特徴がある。

次に、学校図書である。「Pre lesson」の書き方や、前学年で学んだ内容の学習ができる。クラスルームイングリッシュ、教室の中で使える英語のページが特設してある。レッスンの終わりに児童の振り返りがある。「We Can!」の単元に準じている。3・4年生との接続を考えた構成になっている。「Word Corner」のワードリストが豊富である。「Alphabet Corner」では、ゲーム感覚で文字に慣れ親しめるなどの特徴がある。

次に、三省堂である。Stepの最初のLessonで「Story」があり、絵を見ながら内容を予想し、聞くことができる。教室で使う英語や、基本的なやりとりなどが初めに示されている。最後に「CAN-DO」リ

ストがあり、何ができたのか確かめができる。単元としてのめあてを児童自身が考え、記入する欄があり、児童に主体的な学習を促すことができる。単元のコミュニケーション活動の手順を丁寧に示すページがあり、児童が対話や協働して活動することができる点や、Responseを意識させる視点がある、などの特徴がある。

続いて、教育出版である。他教科との関連が記載されている。2学年国語で学習した物語文「お手紙」を英語で学ぶことができる。レッスンの最後に振り返りができるスペースがある。児童にとって自然なコミュニケーションの活動が工夫されている。対話や協働がしやすい構成となっている。友達へのインタビューや、交流する活動がバランスよく設定されている。「Sounds and Letters」のページがあり、文字と音との関連を意識させることができるなどの特徴がある。

次に、光村図書である。単元の流れや学習内容がステップごとに初めのページに示され、児童が見通しを持ちやすい。単元最後の「CAN-DO」リストは振り返りがしやすい。Unitごとに「Alphabet Time」があつて、児童が楽しくアルファベットを学ぶことができる。やり取り、発表などのコミュニケーションの活動があり、Responseを意識させる観点が含まれていてよい。チャンツやリスニングを繰り返し行い、言葉に慣れさせる工夫があるなどの特徴がある。

最後に、啓林館である。「Pre Unit」が各学年にあり、既習事項の振り返りができる。他の教科書は「We Can!」に準じているが、この教科書は独自の単元配列となっている。6年生の最後に、将来の夢、中学校生活に向けての内容となっており、学習する時期が合っている。「CAN-DO」リストが示されていて、どこまでできたかを振り返ることができる。巻末に単語帳があり、カテゴリー別で調べやすいなどの特徴がある。

報告は以上である。

大熊教育長

それでは、質問のある方、お願いします。はい、どうぞ。

浅野委員

新しい指導要領の評価の観点の一つに、資質能力の育成ということがあると思う。外国語の場合、聞くこと、読むこと、口頭でやりとりすること、口頭で発表すること、そして書くことという5つの領域が示されていると思う。それぞれの教科書で、これらがどのよ

うに扱われているのかを教えてください。

所校長 各教科書とも、まずは「聞く」ということを大切にしている。そして、聞いたことを伝える活動や、聞いたことを書く活動などが設定されている。また、文字と音の関連性を持たせる活動も入っている。各教科書ともに単語が豊富に掲載されており、読んだり、適切に発音したりする活動ができる。このように、バランスよく5領域が取り入れられている。

大熊教育長 ほかにないか。はい、どうぞ。

鮎川教育長 今回、選定する外国語の教科書は5・6年生用、高学年用ということで、中学年、3・4年生で既に英語の音声や基本的な表現にはなれ親しんできていると思う。そのことを踏まえて、コミュニケーションを図ることが大切だと思うが、取り上げられている特徴的な活動などはあるか。

所校長 各教科書ともに、教室内で使う英語、クラスルームイングリッシュを掲載しており、基本的な表現に親しみやすい工夫をしている。また、チャンツが豊富で、繰り返し発生させることで発音に気をつけさせる活動を取り入れている。ほかにも、従来のゲームなどの活動に加えて、ペアトーク、やり取りを多く取り入れている。

鮎川教育長 わかった。
職務代理者

大熊教育長 ほかに質問ないか。よろしいか。
それでは、これより協議に入る。ご意見を願います。はい、どうぞ。

浅野委員 今回、全社の教科書に目を通して、率直に言って大変な驚きがあった。つまり、分量、それから難易度ともに、大変水準が高いという印象を受けた。市民アンケートに寄せられた声の中にも、やはりこの教材の分量の多さや、難しさといったことに対する懸念を表明される声が増えつつ上がっていたのを記憶している。

そういうことを前提にして、小金井市の子供たちがこれから英語をどういうふうに学んでいくかということを考えてときに、やや強い言い方をすれば、今回の最大の、と言ってしまうとちょっと語弊はあるが、やはり一番気をつけなければいけない点は、児童たちが英語を嫌いになってしまったり、苦手意識を持ってしまったり、そういうことが起こらないようにするということに、最大限の注意を払わなければいけないのではないかと思う。

そういったことを考えたときに、先ほど選定委員長のほうからもご説明があったクラスルームイングリッシュ、教室の中でよく使う英語を最初に示して、導入というか、入っていきやすくするということは非常に大切だと思うし、教科書のページの構成においても、例えば日本語の説明と英語との比率とか、ビジュアルな素材と文字素材の比率とか、そういったことが非常に重要な、そのバランスが非常に重要な問題になってくるのではないかと思う。

そういう意味で、英語の世界に児童を最初に導いていくということを考えてときに、抵抗なく、苦手意識も、嫌いになることもなく、入っていきやすいという観点から見たときに、私は教育出版の教科書が非常にいいのではないかと考えている。

大熊教育長

ほかに、ご意見はないか。

鮎川教育長
職務代理者

浅野委員がおっしゃったことに私も強く共感している。外国語教育を小学校でやることに対して反対というわけでは全くないが、中学校で初めて英語に触れていた子供たちが、英語が苦手だということが小学校に前倒しになって、早まってしまうことがないように、外国語の教科に触れる子供たちが英語を嫌いにならないように、苦手だと思わないようにできる教科書が一番よいと、強く思っている。

先ほど浅野委員から、日本語のバランス、その他、視覚的な効果などで教育出版がよいというようなご意見を伺った。私も同感だが、それに加えて三省堂と学校図書も、クラスルームイングリッシュがわかりやすく書かれていて、英語が苦手という子供が少なくなると思っている。

私自身、ヨーロッパに住んでいた経緯があって、いろいろな方に外国語教育はどうすれば効果的だろうかというご質問をいただく。外国語教育に素人なので、正解はわからないが、あえて申し上げる

と、よく使うものを繰り返し学ぶことが、子供たちにとって、特に小学生の子供たちにとってよいと思う。先ほど申し上げた2社がよいと思っている。

小金井市の先生方が書いてくださった選定調査資料の中では、三省堂について、コミュニケーション活動の手順を丁寧に示すページがあり、児童が対話や協働して活動することができる点や、レスポンスを意識させる視点が非常によいと書かれている。先生方がそのようにご判断されたことを踏まえて、三省堂がよいと思っている。

大熊教育長 ほかにあるか。初めての教科なので。はい、どうぞ。

福元委員 今まで出た心配から見たときに、やはり教育出版が一番いいかなと私も思っている。「Let's Start Together」というページだが、児童が日常生活の中で使う英語を確認することができ、さらに英語の語彙が増えるという点でよいと思った。

大熊教育長 ほかにあるか。はい、どうぞ。

岡村委員 すごい量で、すごく大変だと思うが、世界的には本当に英語がインターナショナルで、すごく大切だと思う。そして、やはり2つの道を歩まなくてはいけなくて、1つ目はやはりコミュニケーションを私たちはとれるか。コミュニケーションを恥ずかしがらずに、きちんととれるかということと、2つ目は文字と音の関連がすごく大切だと思う。アメリカ人でも、読めるけれども意味がわからない、「think」と読めるが、考えるとわからない人がいる。読めると、いろいろコミュニケーションがとれるので、私は教育出版の「Sounds and Letters」が、読めるという、その教育とコミュニケーションで教室英語は大切だが、文字と音の関連については、ほかの外国の人たちは非常に教育している。それが教育出版にはすごくわかりやすく書いてあるので、私も教育出版がいいかなと思った。

大熊教育長 なるほど。
ほかにあるか。はい、どうぞ。

浅野委員 すまない、先ほどの発言の補足をする。各社とも非常に工夫を凝

らされているが、やはり初年度だからということもあると思うが、教科書の分散が大きいというか、わりあい多様性がはっきりしていて、いろいろな多様性の軸があると思うが、1つは中学校での英語教育を基準線に置いたときに、それに近いものと遠いものがあると思う。今は、中学校の英語の問題集に近いような体裁のものから、それを意識させないようなものまでという分布の仕方があると受けとめた。

繰り返しになるが、教育出版のものは、いわば古典的な中学校の英語教育から遠い、問題集的ではない、あるいは文法書的ではないという意味で、抵抗なく英語の世界に入っていける教材なのではないかと思ったということをお聞きいただきたく。

大熊教育長

今までのご意見をまとめてみると、今回、初めて英語教育が、教科書がある形で進んでいくわけだが、一番危惧するのは、この段階で英語が嫌いになってしまうということに一番問題がある。これがこなれてくれば、ある程度のレベルまで行くと思うが、特に小金井市の子供たちはついてこられる子もいっぱいいると思うが、やはり英語に親しむという観点で教科書を選んでいくことが必要だと思う。そうなってくると、いわゆる英語の教科書に近いという教科書ではなくて、やはり英語に親しむ部分が多く取り入れられている教育出版がよいと思われるが、皆さん、いかがか。

(委員一同異議なしの声)

大熊教育長

それでは、外国語の教科書は教育出版に決定する。

最後に、道徳の説明をお願いします。

所校長

道徳教科用図書の調査研究の報告をする。

全8社ある。そのうち、5社が教科書1冊、3社が別冊付となっている。その3社は、学校図書、日本文教出版、廣済堂あかつきである。

では、初めに東京書籍である。問題を見つけて考える教材がチョウのマークで盛り込まれている。「つながる・広がる」を通して、他教科の学習と道徳科の関連が図られている。教師の判読で十分に理解できる分量である。イラスト教材、写真資料のバランスがよい

などの特徴がある。東京書籍の教科用図書は、この2年間、本市で採用しているため、これまでの教員の教材研究の蓄積が活かせるものとなっている。

学校図書である。別冊には「こころのパレット」があり、自分の考えや友達の考えを共有できる。全ての教材でQRコードがついていて学習への発展が可能。「共に生きる」マークのついた教材では、いじめをなくすことや、周り人との関係について深く考える内容で、6年生では6教材配列されている。分量は、他社に比べて少なめである、などの特徴がある。

次に、教育出版である。補充教材が巻末にあり、入れ替えが可能。高学年を中心に、歴史上の偉人や実在する人物から学ぶ資料が多い。巻末に「まなびリンク」があり、学習に役立つ情報ウェブサイトを閲覧できる。巻頭の「気付く」「考える」「深める」「つなげる」という指導パターンがわかりやすいなどの特徴がある。

次に、光村図書である。世界人権宣言や、詩、絵本、童話など、さまざまな切り口で、興味のある教材を取り扱っている。教材の最後には、「考えよう・話し合おう」「つなげよう」で学習の流れが明記されている。学期ごとのまとまりになっており、例えば1学期は周りの人とよりよい関係を築く、2学期は広い視野で人や社会とかわる、3学期は自分の生き方を見つめると、テーマが設定されているなどの特徴がある。

次に、日本文教出版である。別冊「道徳ノート」があり、学びの軌跡を振り返ることができる。自由度がある分、書く分量が多い。各教材の前に、あらすじが書かれている。教材の最後にある「考えてみよう」の視点から、内容について深めやすくなっているなどの特徴がある。

光文書院である。独自の資料が多く、真新しい印象を受ける。教材の下の段には登場人物の吹き出しがあり、考える視点になっている。各学年40の教材があるので、配列の組みかえが可能である。教材が偶数ページから始まっており、他教材が目に入らず、集中できる見開きスタートになっているなどの特徴がある。

学研である。「広げよう」「つなげよう」「深めよう」のページがところどころにあり、読物教材と関連させながら、発達段階によって活用できる。主題が教材文の前に書いていないため、価値観を押しつけない配慮がされている。学習指導要領に示されている4つの

視点で、A「私のこと」、B「あなたと私」、C「社会と私」、D「命や自然と私」が巻頭に書いてあるなどの特徴がある。

最後に、廣済堂あかつきである。別冊「道徳ノート」があり、書き込んで考えを深めることができる。「考えよう 話し合おう」が各教材にあり、45分間の流れにそのままなるような学習の道筋が示されている。吹き出しや挿絵を多用し過ぎず、文字数が多くて読み応えがあるなどの特徴がある。

報告は以上である。

大熊教育長 質問はあるか。はい、どうぞ。

浅野委員 道徳については、よく言われる「考え、議論する道徳の授業」を小金井市の小学校では、ここ2年、3年くらいだろうか、ずっと実践してこられたと思う。今回の新しい教科書において、その辺はどのような扱いになっているのか教えてほしい。

所校長 教科書を開くと、多くの教科書が目次の次に、道徳の学習の進め方についてのページを設けている。各社とも、キャラクターやマークなどを使って、児童が考え、議論する道徳の授業展開ができるようガイドしているのが特徴的である。

大熊教育長 これは前にも見た。

浅野委員 はい。

大熊教育長 これが、今までの道徳の教科書と一番違うところではないかと思う。
ほかにあるか。

岡村委員 子供たちの道徳的価値について深く考えられるような資料で、おのおのの教科書による特徴は何か。

所校長 児童が道徳的価値について深く考えられるような資料は、今、名作と呼ばれているが、長年にわたって授業で扱われている教材に多くある。各社とも、名作教材がバランスよく配置されている。例え

ば、「手品師」という教材は、全8社中5社が第6学年に掲載しており、3社が第5学年に掲載してあるなど、各社に大きな差は見られない。

大熊教育長

よろしいか。

それでは、協議に入る。はい、どうぞ。

鮎川教育長
職務代理者

道徳の教科書については、2年前の教科書採択において十分に私たちが協議を行った上で、東京書籍に決定した経緯がある。今回の東京書籍の教科書は、資料が各学年1つ変更になっていた程度で、内容に大きな変更はなかった。新たに追加されたこととしては、巻末に学習のまとめがついたことかと思う。学期ごとに心に残った話について書きとめ、考えたことを書けるページになっている。長期休業前に、自分の生活を振り返ることができるページができたことはよいことだと思った。それ以外に大きな変更がないのであれば、引き続き東京書籍の教科書を使うのがよいと思っている。皆様、いかがか。

大熊教育長

はい、どうぞ。

福元委員

私も、今の鮎川職務代理者と同じ意見である。他の教科書も見たが、順序の入れかえ、資料の変更等は各教科書であったが、大幅な変更はなかった。今、先生たちは、東京書籍の教科書に沿った資料をもとに授業研究を推進しておられる。教材への理解が深まってきたころだと思うので、引き続き東京書籍がよいのではないかと思う。

大熊教育長

先生の働き方改革もあり、来年から新しい教科も始まることもあり、少しでも先生方の負担を減らしたいという気持ちもある。そこで、ようやくなれてきた道徳の教科書を、今、特に大きな問題がない限り、このまま継続して使いたいと思う。よって、道徳の教科書は引き続き東京書籍がよいと思われるが、いかがか。

(委員一同異議なしの声)

大熊教育長

それでは、道徳の教科書は東京書籍に決定する。

総括を行う。令和2年度小金井市立小学校使用教科書の採択については、国語が光村図書、書写は同様に光村図書、社会が東京書籍、地図が帝国書院、算数が東京書籍、理科が大日本図書、生活が東京書籍、音楽が教育芸術社、図画工作が日本文教出版、家庭が東京書籍、保健が光文書院、外国語が教育出版、道徳が東京書籍と決定する。

以上で、令和2年度小学校使用教科書の選定を終了する。

以上で、日程の第2、議案第7号、令和2年度使用小学校教科用図書の採択についてを終了する。

次に、日程の第3、報告事項を議題とする。学校教育部から報告があればお願いします。

大津学校
教育部長

特にない。

大熊教育長

生涯学習部から報告事項があればお願いします。

藤本生涯
学習部長

特にない。

大熊教育長

2、今後の日程である。事務局から報告願う。

中島庶務係長

それでは、教育委員会の今後の日程について報告する。

東京都市町村教育委員会連合会第2回常任理事会、及び理事会、並びに第2回理事研修会が、8月9日、金曜日、午後1時30分から東京自治会館で開催される。福元委員のご出席をお願いします。

続いて、令和元年第9回教育委員会定例会が、8月27日、火曜日、午後1時30分から、801会議室で開催される。全委員のご出席をお願いします。

続いて、令和元年第10回教育委員会定例会が、10月7日、月曜日、午後1時30分から、801会議室で開催される。全委員のご出席をお願いします。

続いて、令和元年第11回教育委員会定例会が、10月29日、火曜日、午後1時30分から、前原暫定集会施設A会議室で開催される。全委員のご出席をお願いします。

今後の日程は以上となる。

大熊教育長

以上で、報告事項を終了する。

次に、日程の第4を議題とするところだが、人事に関する事件である。委員長は、本案は、小金井市教育委員会会議規則第10条第1項に規定する事件に該当するため、非公開の会議が相当と判断するが、委員の皆様、ご異議はないか。

(委員一同異議なしの声)

大熊教育長

全員異議なしと認め、秘密会を開会する。

準備のため、休憩する。

傍聴人におかれては、席を外していただくことになるので、よろしく願います。

休憩 午後5時13分

再開 午後5時27分

大熊教育長

再開する。

以上で本日の日程は全て終了した。これをもって令和元年第8回教育委員会定例会を閉会する。

閉会 午後5時28分